



2016年3月期
決算説明資料

2016年5月
Jトラスト株式会社

- 1. 決算のポイント**
- 2. セグメント別業績**
- 3. 2017年3月期 計画**
- 4. 現状の取組みと今後のビジョン**
- 5. APPENDIX**

免責事項

- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。
様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- 本資料に記載したIFRSの数値は、当社が参考値として策定した未監査の数値であることをご承知おき下さい。
- また、説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社または子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 本資料において「親会社株主に帰属する当期純利益」は「当期純利益」と表示しております。
- 東南アジア金融事業のJ-GAAPは現地の決算期をそのまま取り込んでおります。
3ヶ月期ずれ（第1四半期：1月～3月 第2四半期：4月～6月 第3四半期：7月～9月 第4四半期：10月～12月）

決算のポイント

2018年3月期中のIFRS適用に向け、 新監査法人を選任

新監査法人： **優成監査法人**[※]

- クライアント上場企業：51社 監査法人ランキング：トップ10

異動の理由：

- 同監査法人の海外ネットワークが、今後の更なるグローバル展開に不可欠
- IFRS適用・運営に関して、同監査法人の豊富な国際経験が有効

決算開示方針：

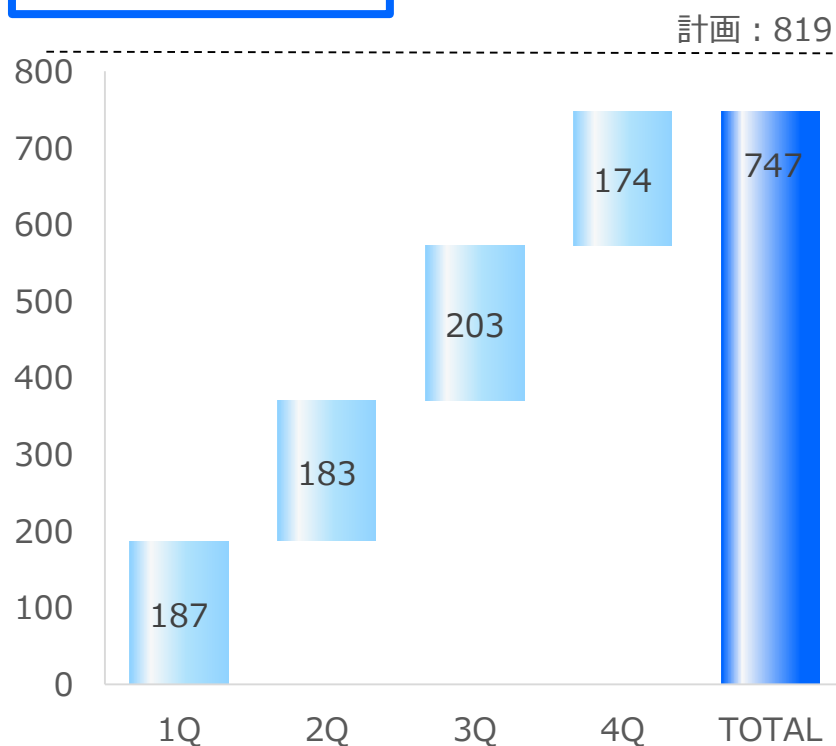
- J-GAAPの開示を基本に2016年3月期同様、IFRSを参考値として開示予定

➤ IFRS：747億円、J-GAAP：754億円と共に過去最高益を更新

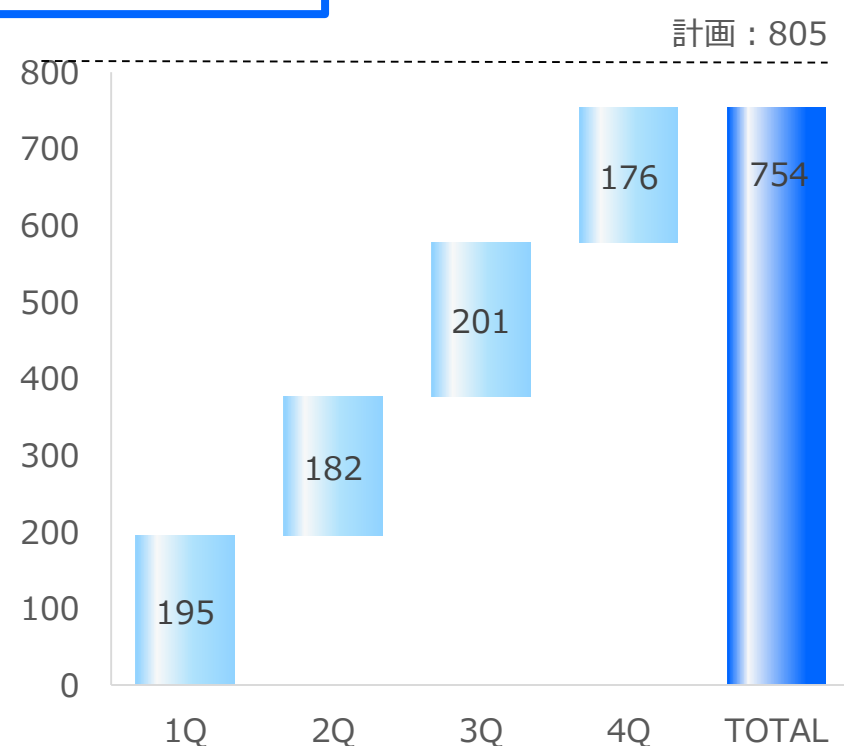
連結営業収益

単位：億円

IFRS ※未監査



J-GAAP

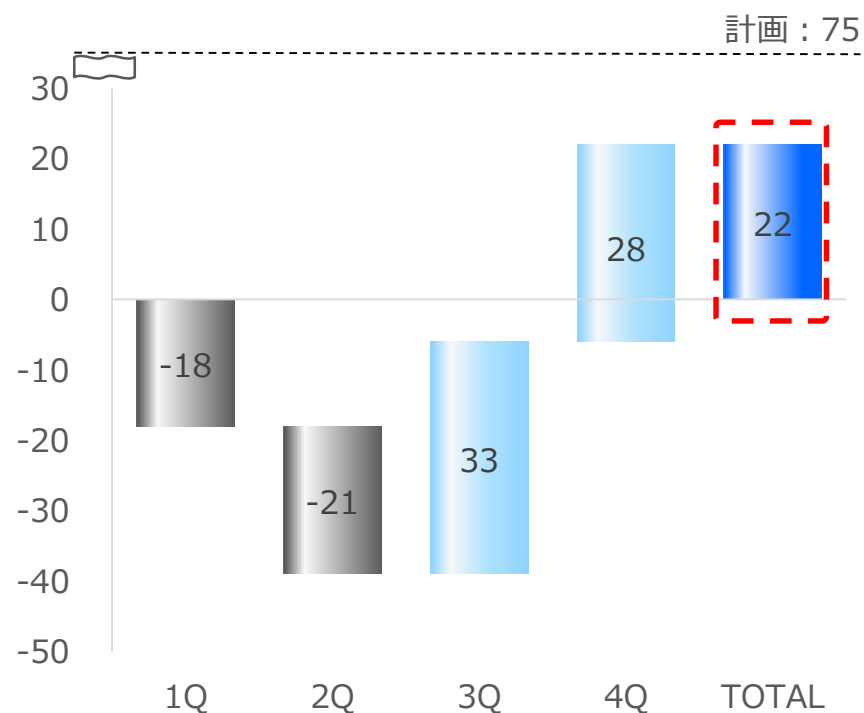


- IFRS：通期黒字化を実現
- J-GAAP：①のれん ②期ずれ ③貸倒引当金の差異 等により計画を下回る

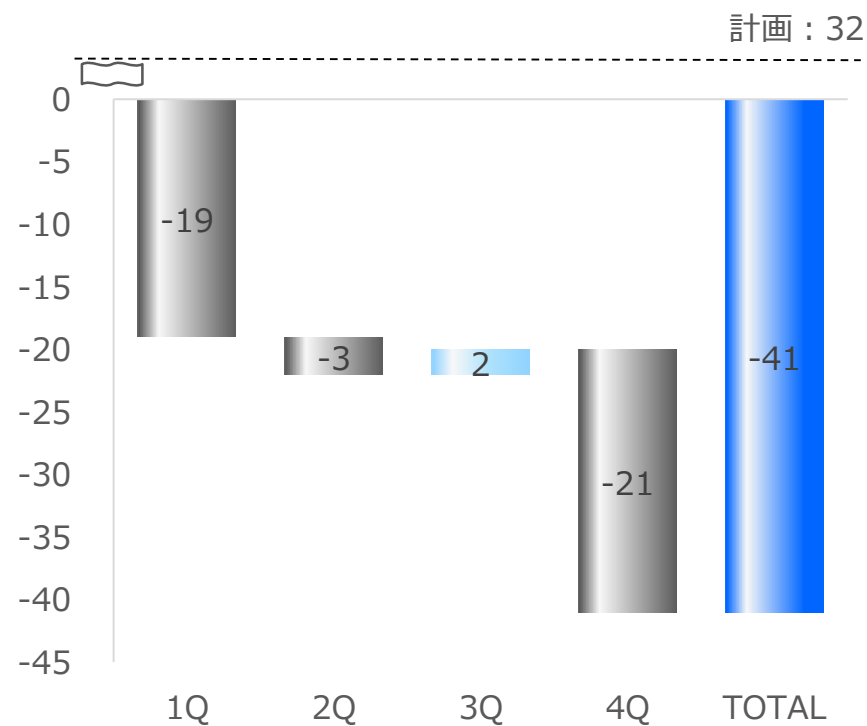
連結営業利益

単位：億円

IFRS ※未監査



J-GAAP

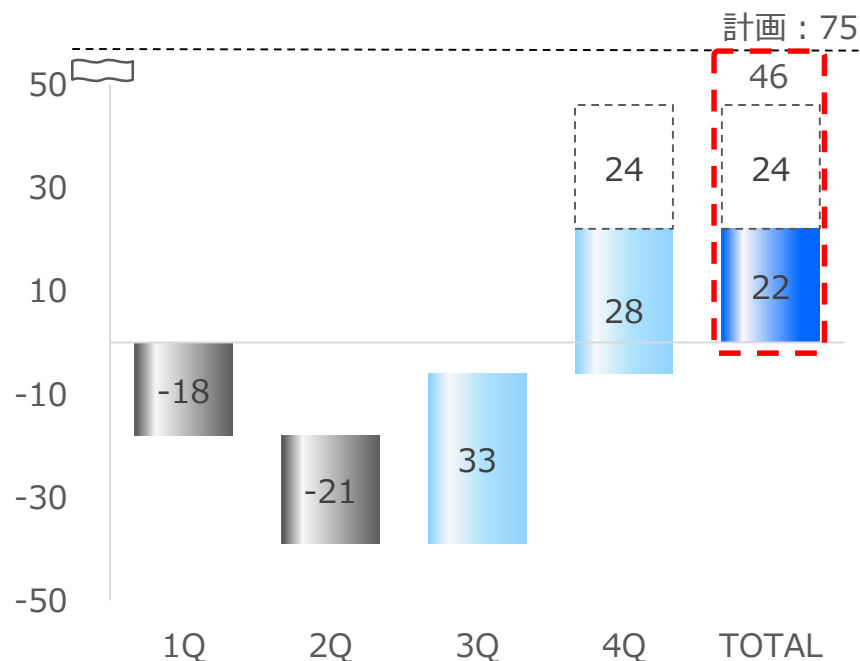


- J-GAAPにおける4Qの営業損失は、韓国金融事業数値をJ-GAAPで表示する際においてIFRS適用に向け債権の評価を定額法から実効金利法へ変更し、負ののれんの影響を前倒しに消化したことによるもの
- この要因-24億円を考慮すると通期は推計**IFRS46億円** **J-GAAP-17億円**となる

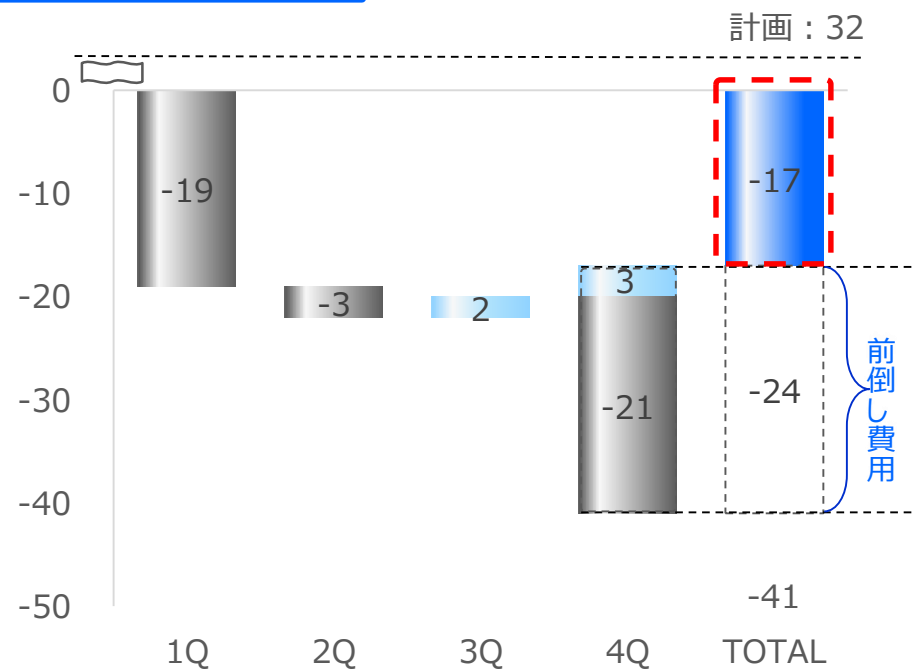
連結営業利益

単位：億円

IFRS ※未監査



J-GAAP



- 連結営業利益は下期より経常的な黒字化を実現
- 東南アジア金融事業において、貸倒引当金の戻し入れにより4Qに利益が改善

IFRS ※未監査

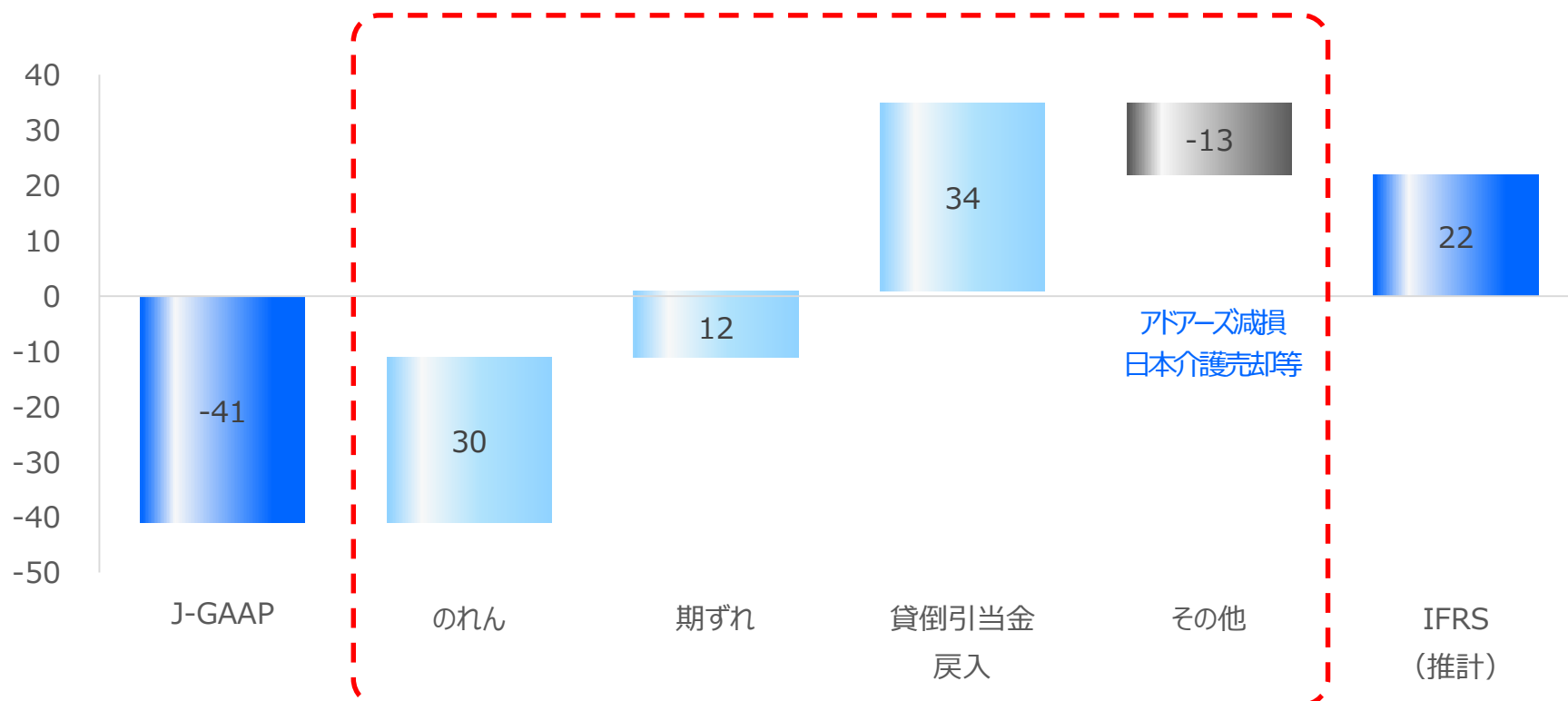
セグメント利益 四半期毎

2016年3月期	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	3Q-4Q 対比
国内金融事業	43億円	11億円	8億円	13億円	11億円	-2億円
韓国金融事業	5億円	-8億円	0.7億円	5億円	7億円	+2億円
東南アジア金融事業	-17億円	-5億円	-30億円	-5億円	23億円	+28億円
投資事業	27億円	—	8億円	18億円	1億円	-17億円
非金融事業	-3億円	1億円	4億円	-0.3億円	-8億円	-8億円
連結合計	22億円	-18億円	-21億円	33億円	28億円	-5億円

- IFRSとJ-GAAPの連結営業利益の差異は、
①のれん ②期ずれ ③引当金 ④その他 の4つによるもの

IFRSとJ-GAAPの差異要因（連結営業利益）

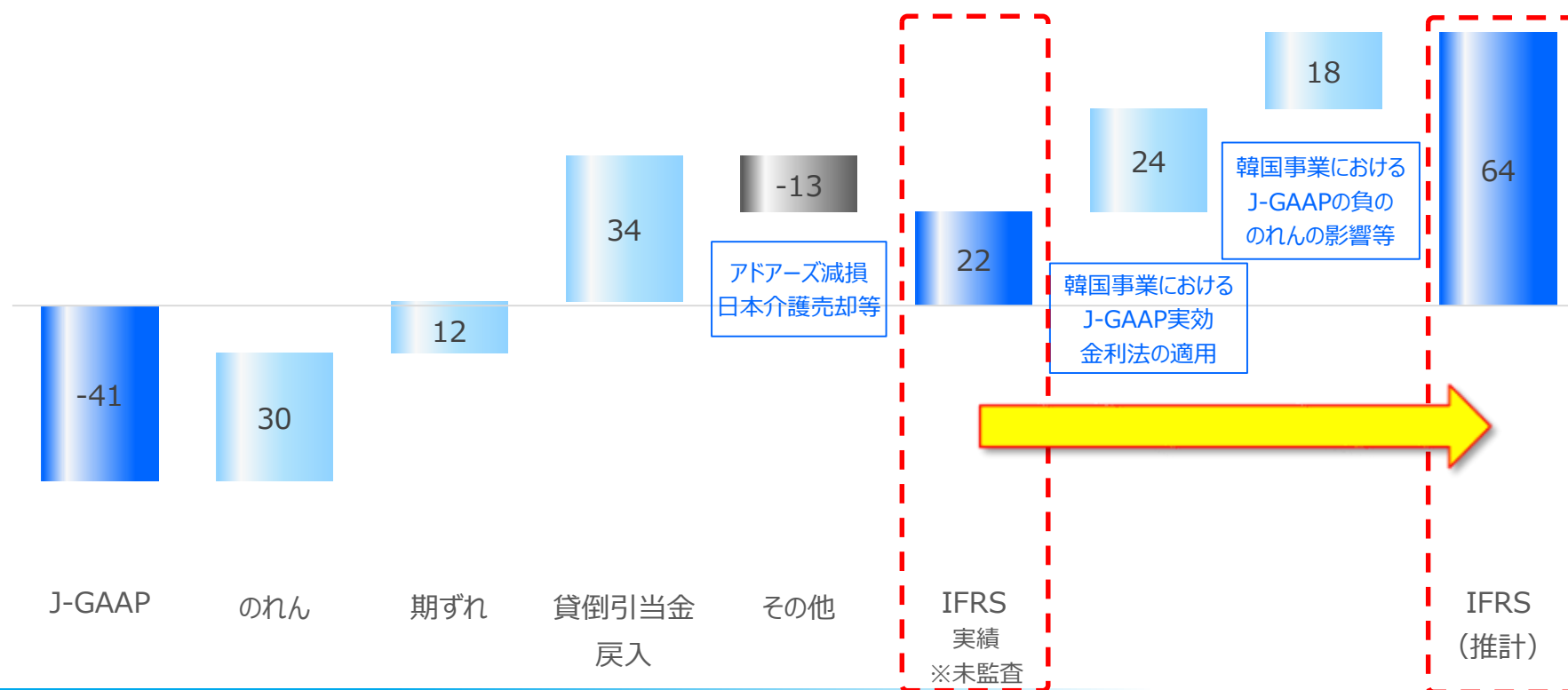
単位：億円



- 2016年3月期IFRSの連結営業利益は22億円だが、事業における利益水準は64億円相当

連結営業利益

単位：億円



セグメント別業績

➤ 国内金融事業および投資事業が大きく貢献

J-GAAP

セグメント利益

2016年3月期	通期計画	実績	差異	達成率
国内金融事業	31億円	38億円	+7億円	123%
韓国金融事業	21億円	2億円	-19億円	10%
東南アジア金融事業	-18億円	-79億円	-61億円	—
投資事業	-2億円	25億円	+27億円	—
非金融事業	10億円	2億円	-8億円	20%
連結合計	32億円	-41億円	-73億円	—

➤ 連結営業利益は22億円 達成率は29%

IFRS ※未監査

セグメント利益

2016年3月期	通期計画	実績	差異	達成率
国内金融事業	32億円	43億円	+ 11億円	134%
韓国金融事業	25億円	5億円	-20億円	20%
東南アジア金融事業	15億円	-17億円	-32億円	-
投資事業	-2億円	27億円	+ 29億円	-
非金融事業	13億円	-3億円	-16億円	-
連結合計	75億円	22億円	-53億円	29%

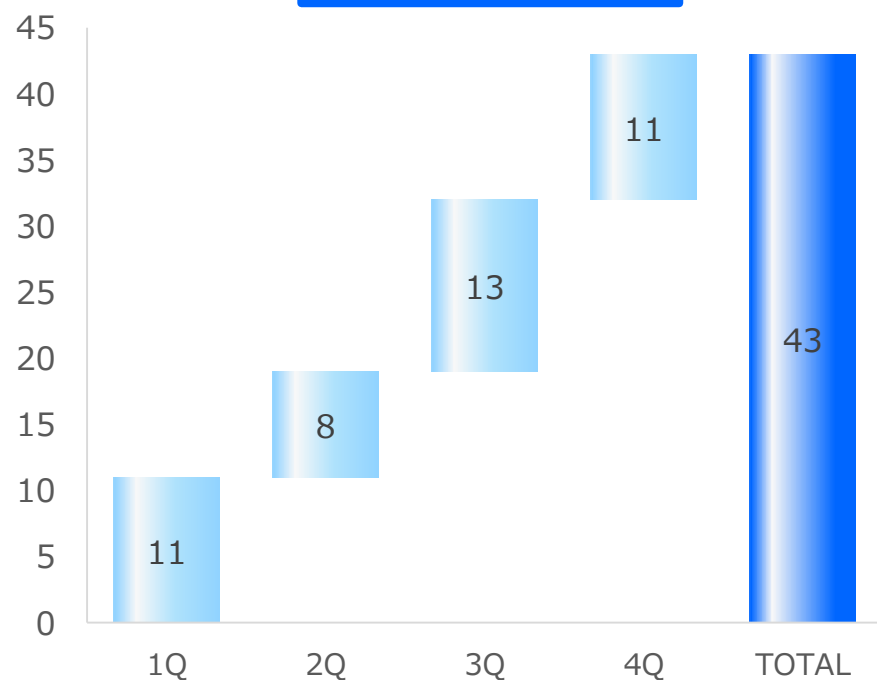
国内金融事業

➤ 営業利益はIFRS/J-GAAPともに計画を上回り着地

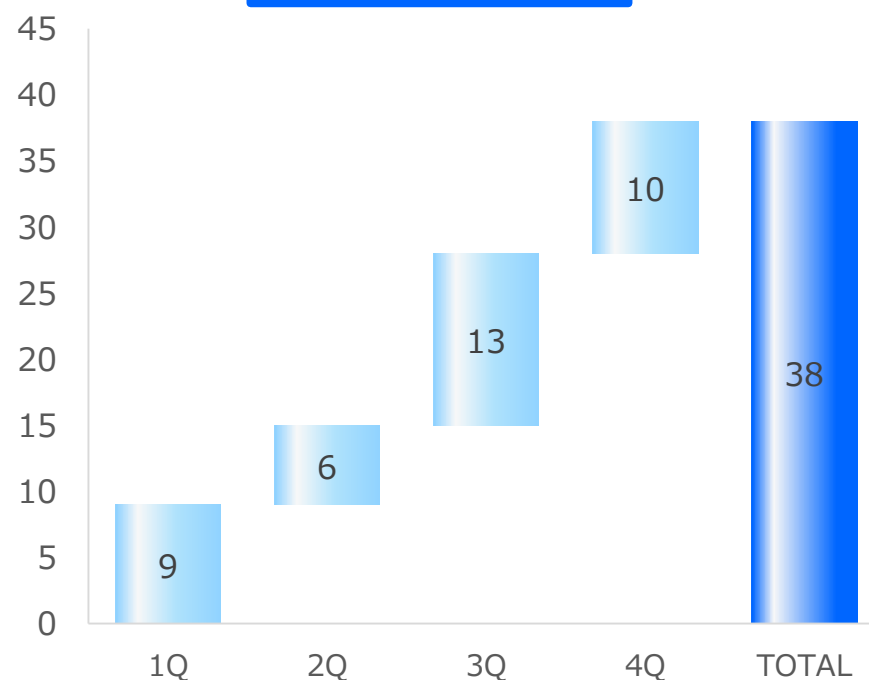
国内金融事業 営業利益

単位：億円

IFRS ※未監査



J-GAAP



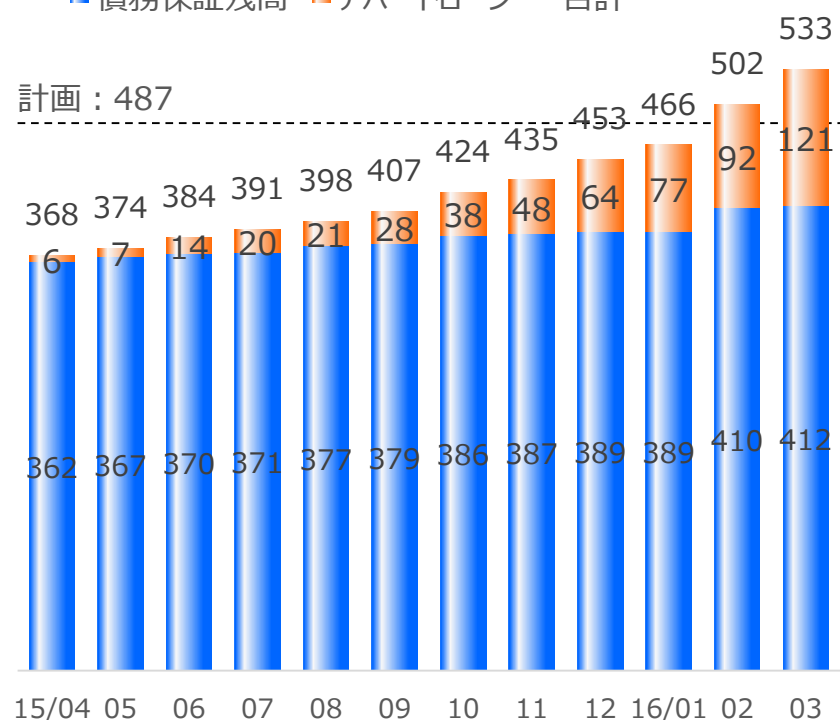
- 保証残高は計画を上回る進捗
- アパートローンも順調に積み上がり、計画487億円に対し109%の533億円に

日本保証における保証残高の推移

単位：億円

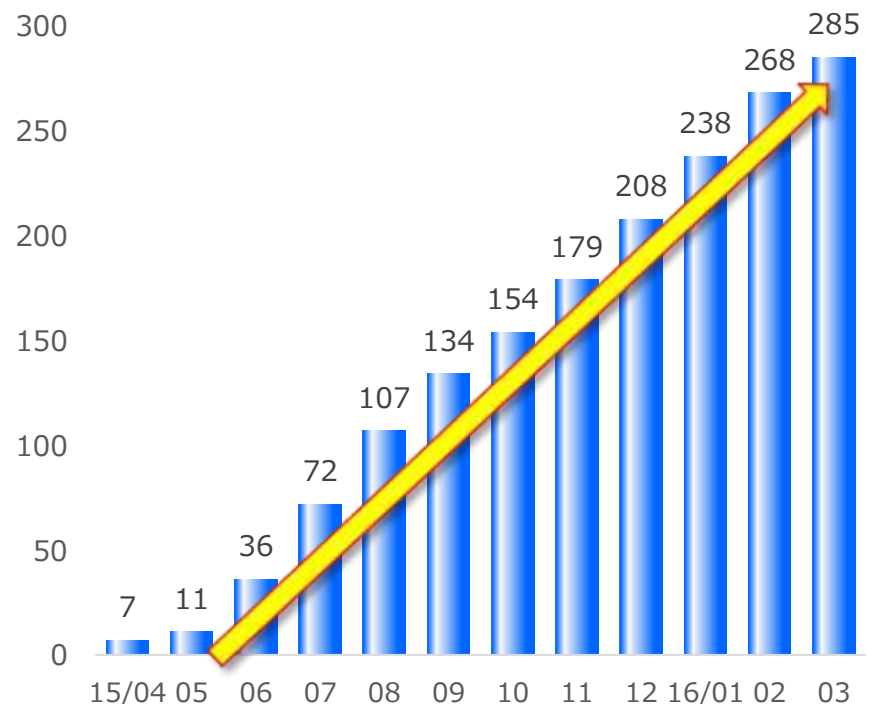
■ 債務保証残高 ■ アパートローン 合計

計画：487



アパートローン本承認累計金額

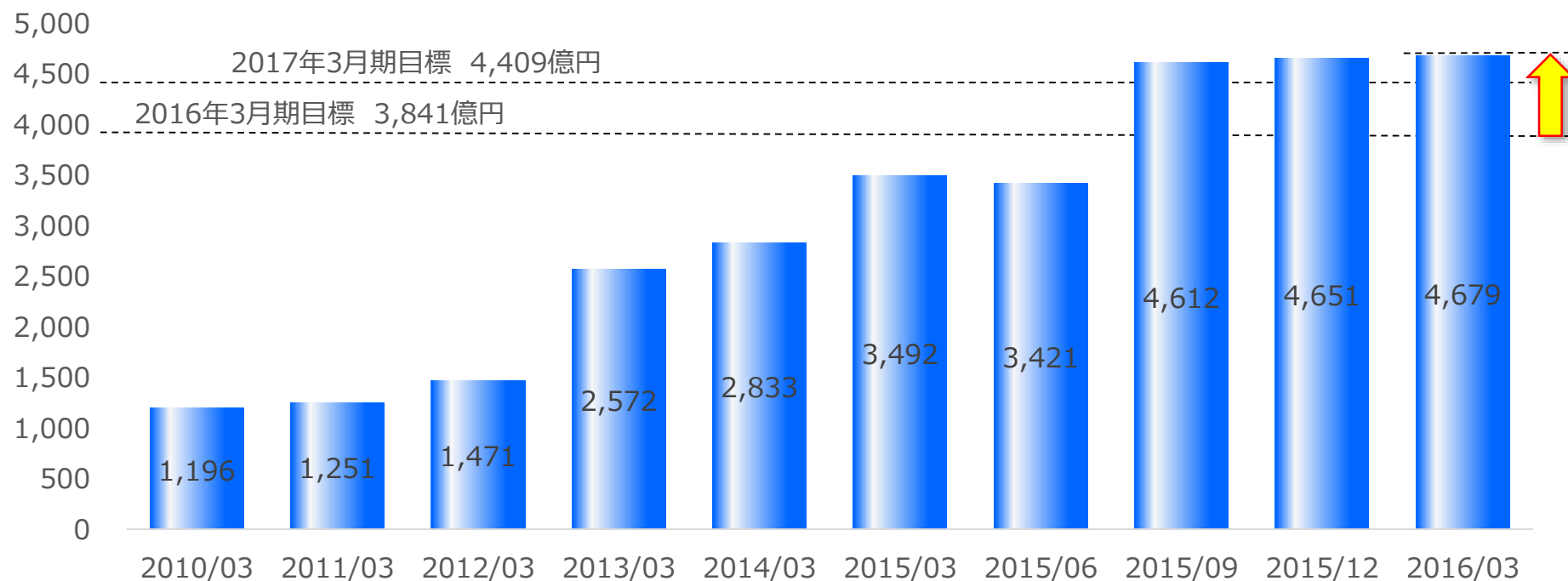
単位：億円



- 4 Qも引き続きNPL債権の買収が奏功し、請求債権残高は増加
- 請求債権残高目標3,841億円に対し達成率122%
(2017年3月期の目標4,409億円もクリア)

請求債権残高の推移

単位：億円



韓国金融事業

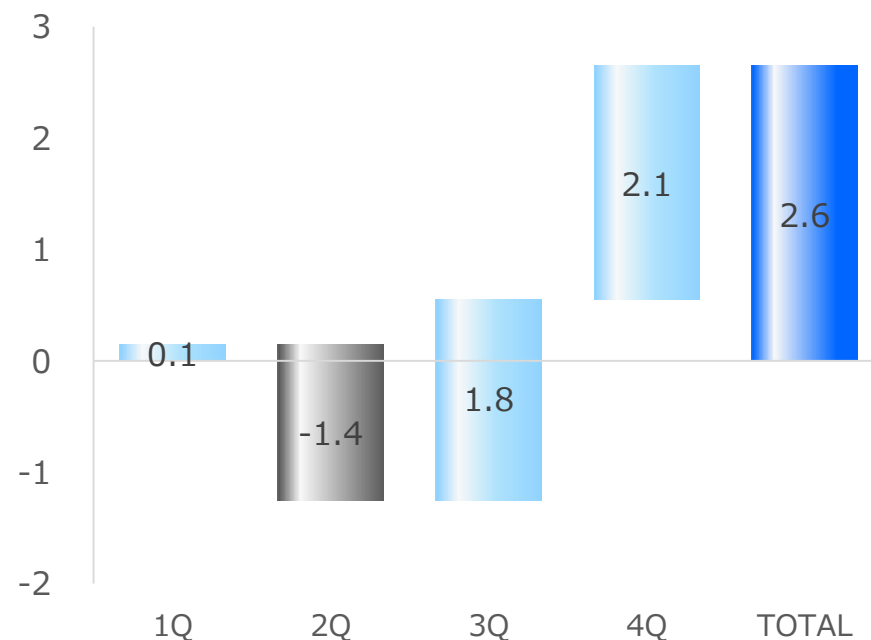
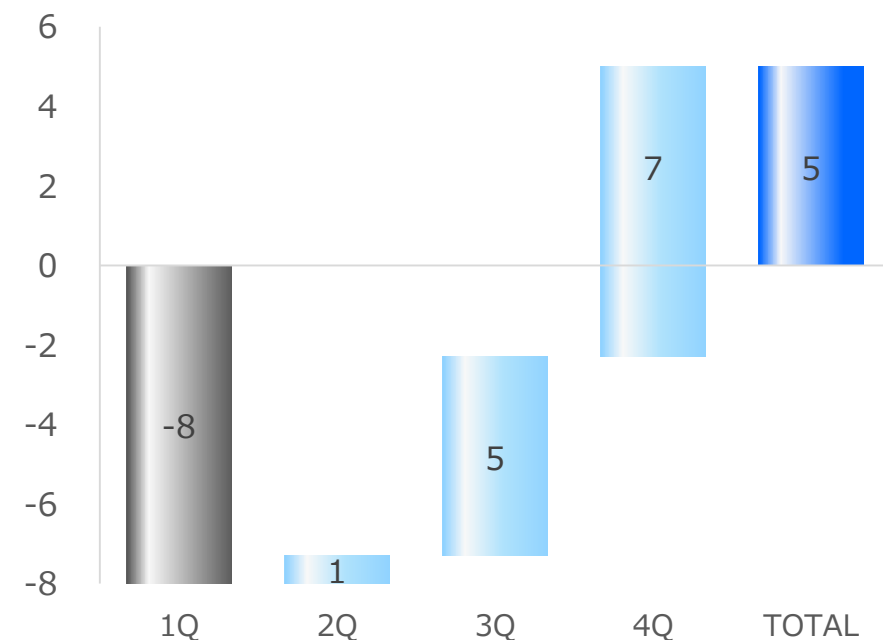
- 現地営業利益は順調に増加も、IFRS/J-GAAPともに2015年3月期に計上した負ののれんが影響し、計画を下回る
- 4QにJ-GAAPにおける債権の評価を定額法から実効金利法へ変更したことも営業利益に影響

韓国金融事業 営業利益

単位：億円

IFRS ※未監査

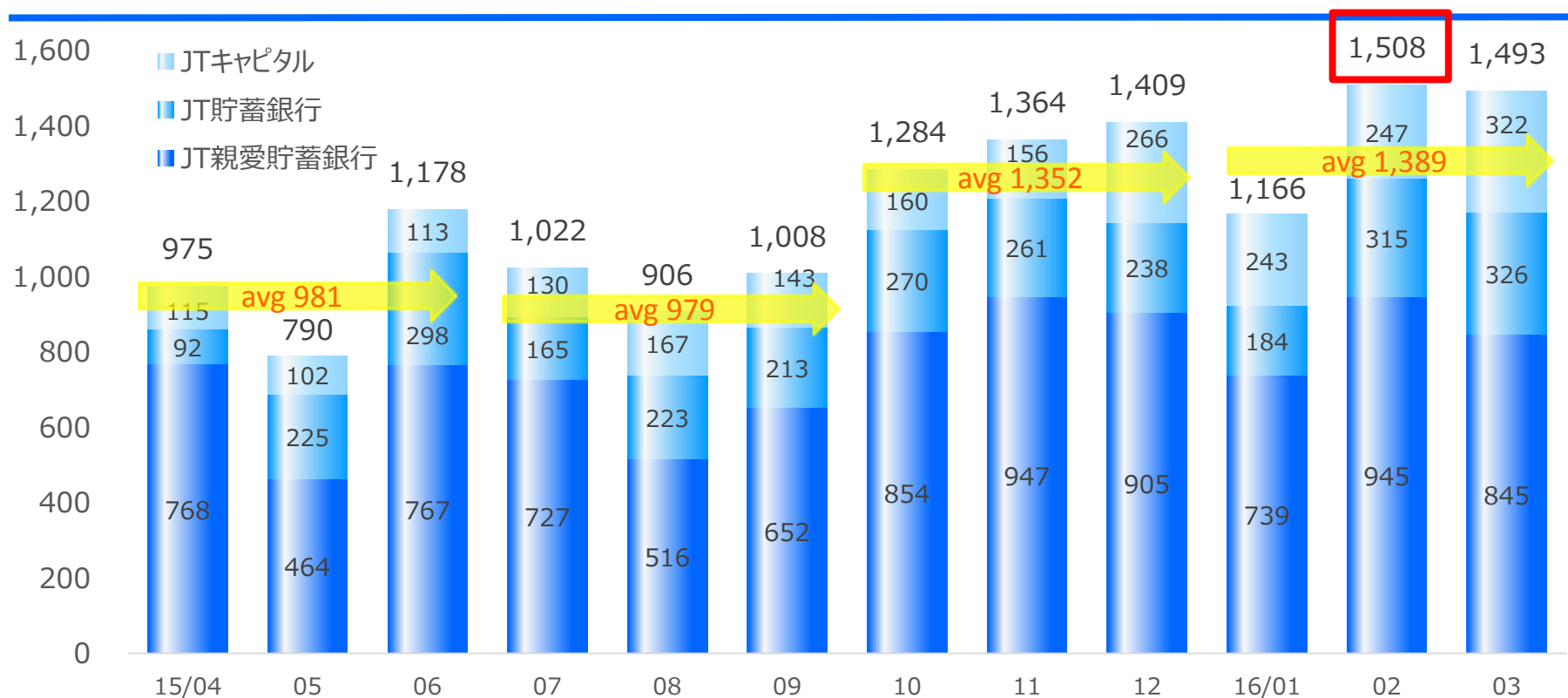
J-GAAP



- 月間新規貸付金額は、4Qは営業日数が少ないにもかかわらず
過去最高額を更新中（3ヶ月平均＝1,389億ウォン）

月間新規貸付金額

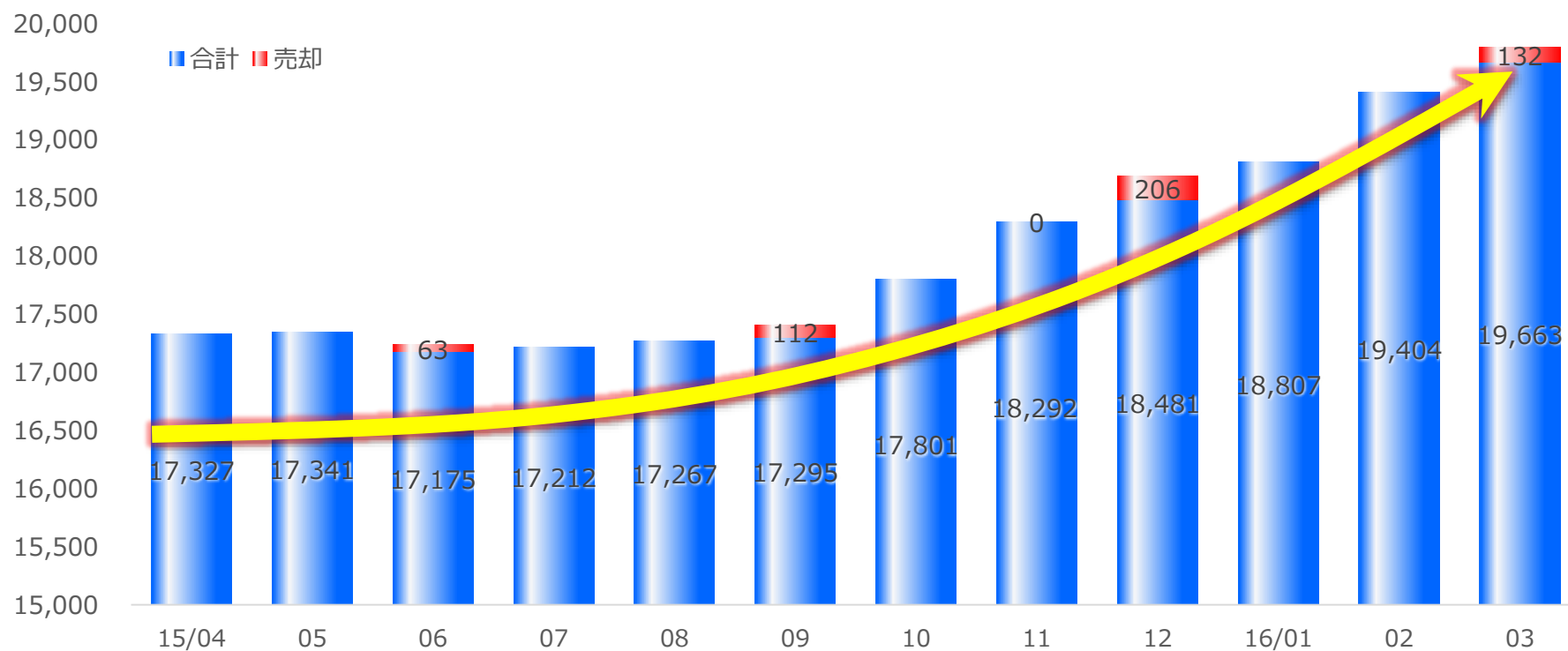
単位：億ウォン
1KR₩ = 0.0986円



➤ 貸付金残高は順調に伸長を続ける

貸付金残高推移

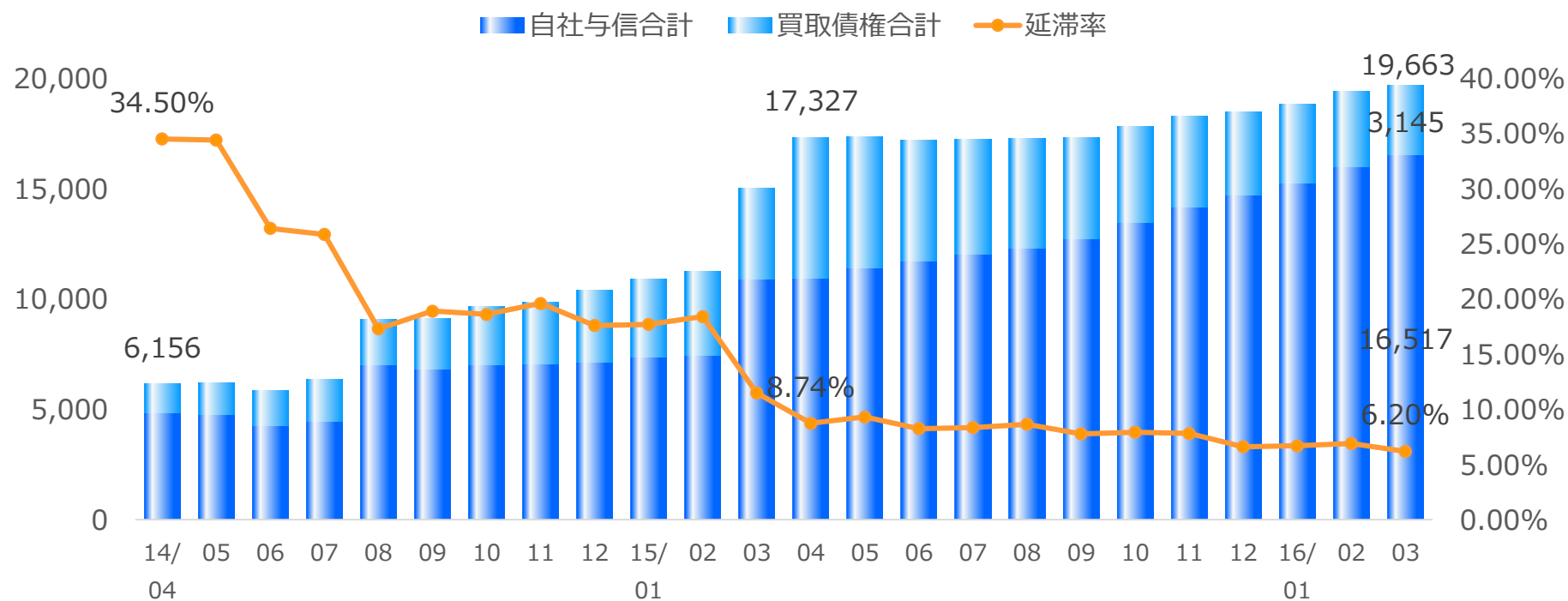
単位：億ウォン
1KRW = 0.0986円



➤ 収益基盤は着実に強固になる

貯蓄銀行/キャピタルの残高および不良債権推移

単位：億ウォン
1KRW = 0.0986円



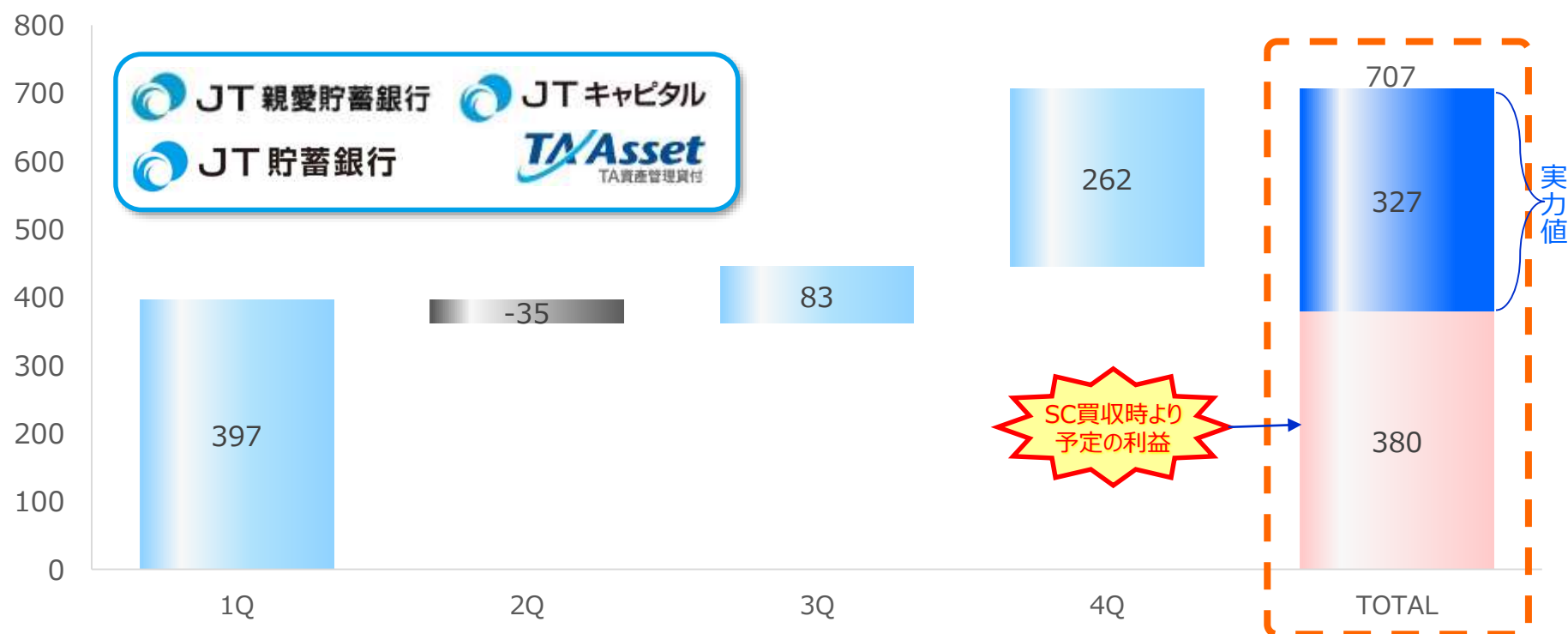
※不良債権 = 30日以上の延滞債権

- 韓国内4社の連結営業利益合計は707億ウォンと最高益
- SC2社※買収時から予定していた債権売却益（380億ウォン）を差し引いた **327億ウォンが実力値**
- 本格的に持続的な成長フェーズへ

K-GAAP

韓国4社合計の営業利益推移

単位：億ウォン
1KRW = 0.0986円



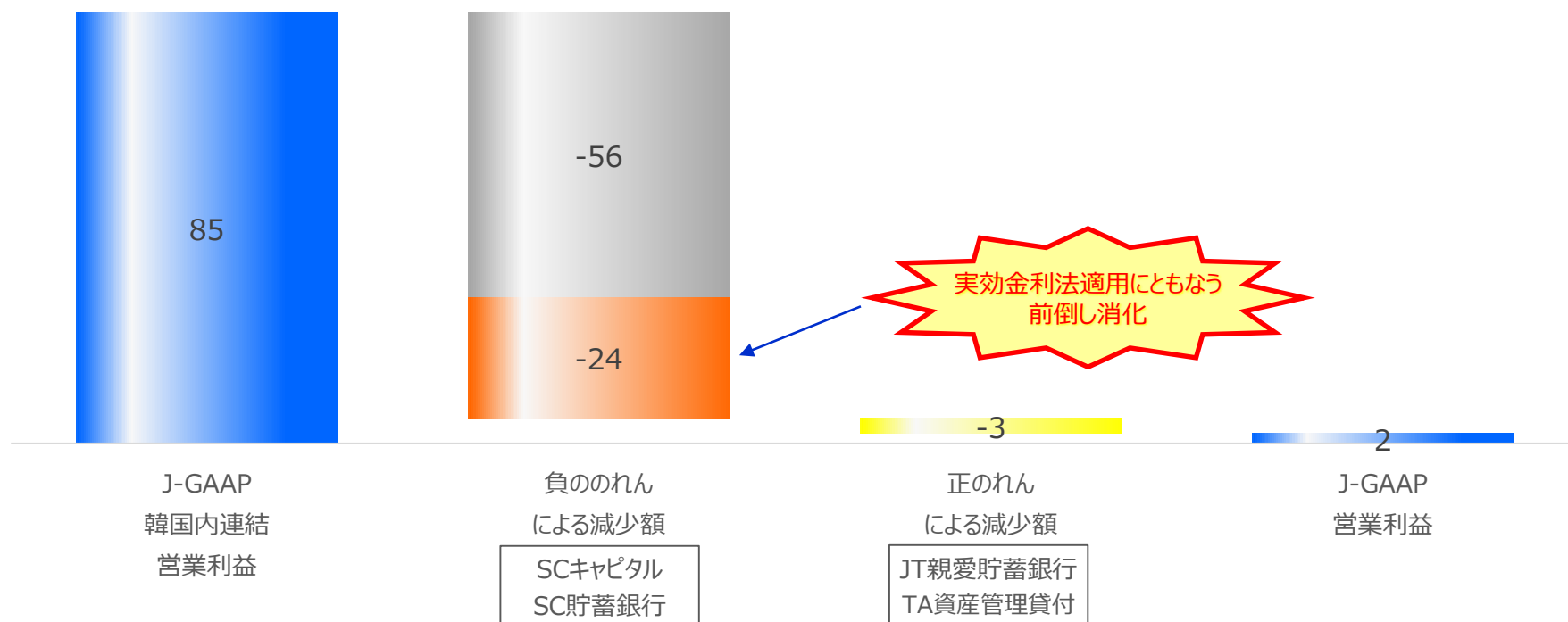
※SC：スタンダードチャータード貯蓄銀行およびスタンダードチャータードキャピタル

➤ 2015年3月期末に計上した負ののれんが連結営業利益に影響

J-GAAP

負ののれんが営業利益に与えた影響

単位：億円

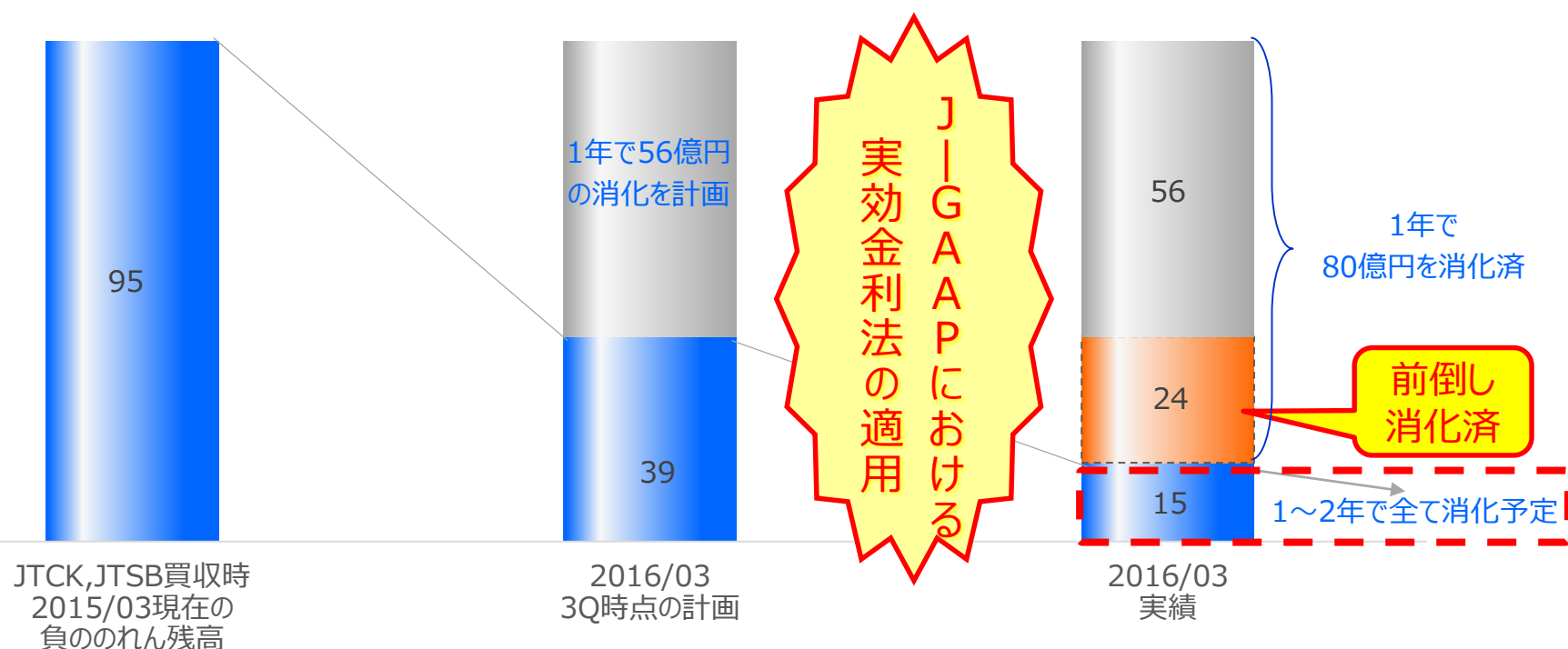


- 2015年3月期における負ののれんが2016年3月期に与えた影響額は80億円
- 4Qに前倒して24億円を処理したことで、今後の影響を減少へ

J-GAAP

負ののれんが営業利益に与える影響（3月末現在）

単位：億円

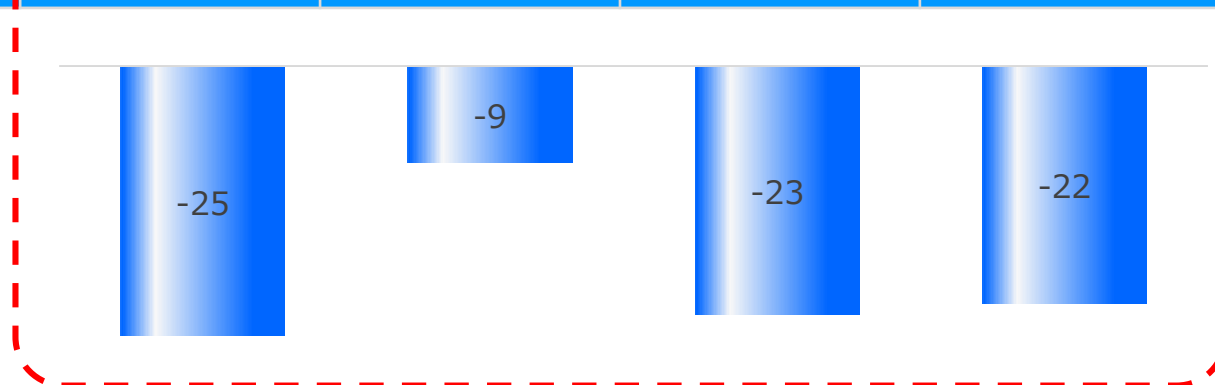


東南アジア金融事業

➤ J-GAAPにおける東南アジア金融事業の連結取り込みは3ヶ月の期ずれ

■ 東南アジア金融事業 業績の取込みイメージ（営業利益）

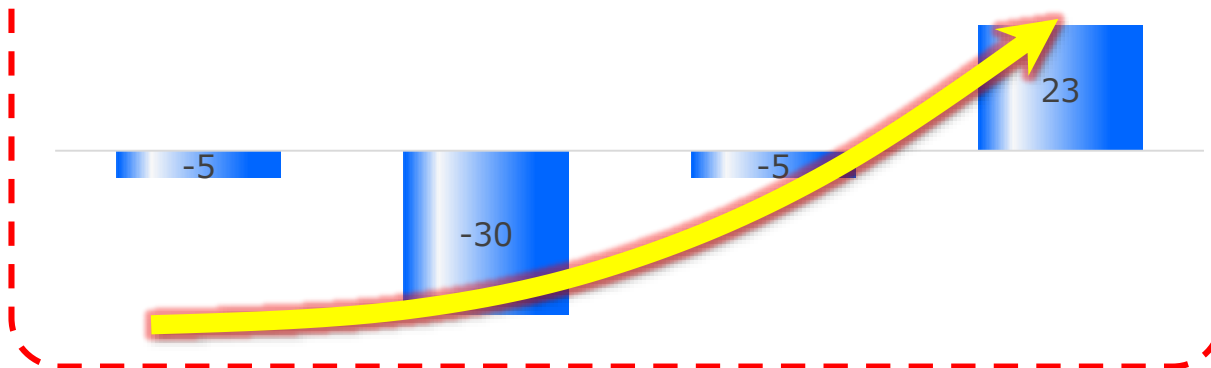
2016年3月期	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
J-GAAP	2015/1~3	2015/4~6	2015/7~9	2015/10~12	
営業利益	-25億円	-9億円	-23億円	-22億円	-79億円



➤ IFRSは四半期毎に改善基調

■ 東南アジア金融事業 IFRSにおける営業利益

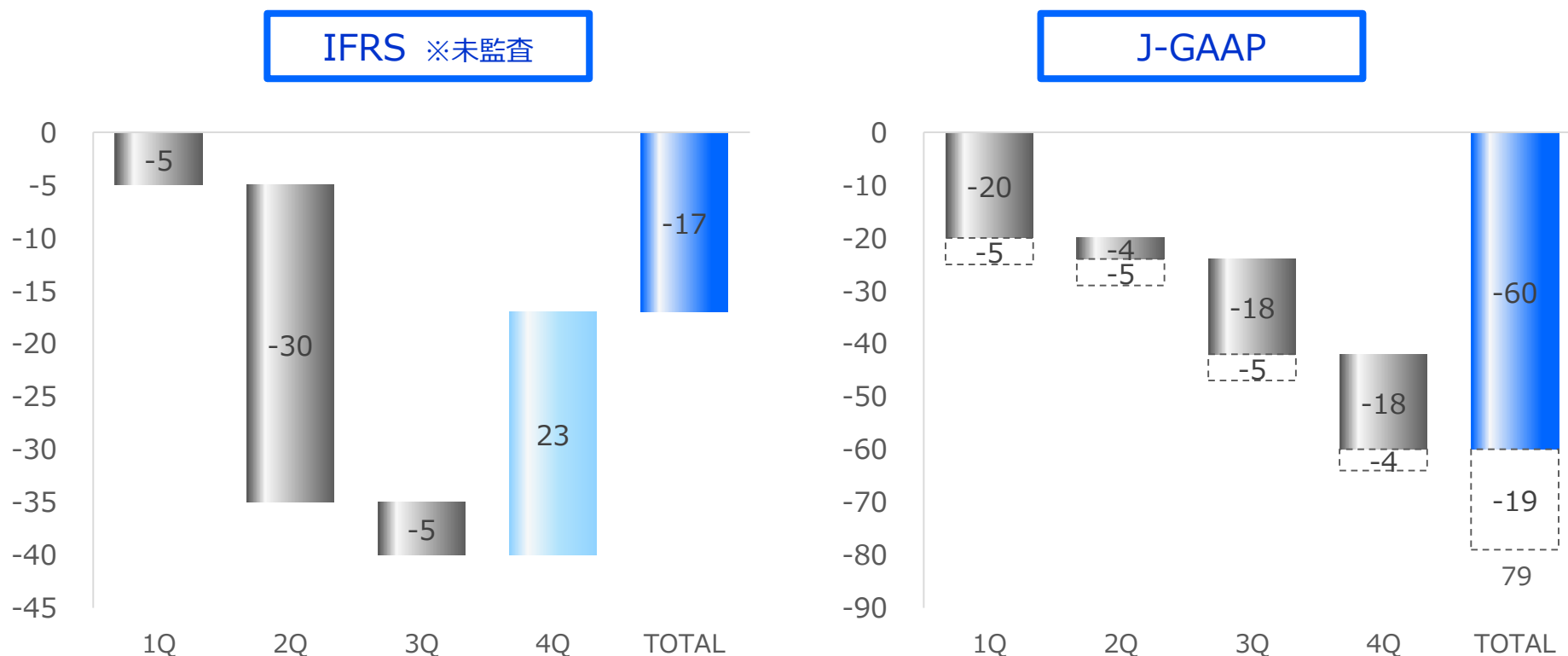
2016年3月期	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
IFRS	2015/4~6	2015/7~9	2015/10~12	2016/1~3	
営業利益	-5億円	-30億円	-5億円	23億円	-17億円



- IFRSは四半期毎に改善基調
- J-GAAPはのれんの償却を差し引けば-60億円
- IFRSの4Q営業利益のうち26億円は、貸倒引当金の戻し入れ

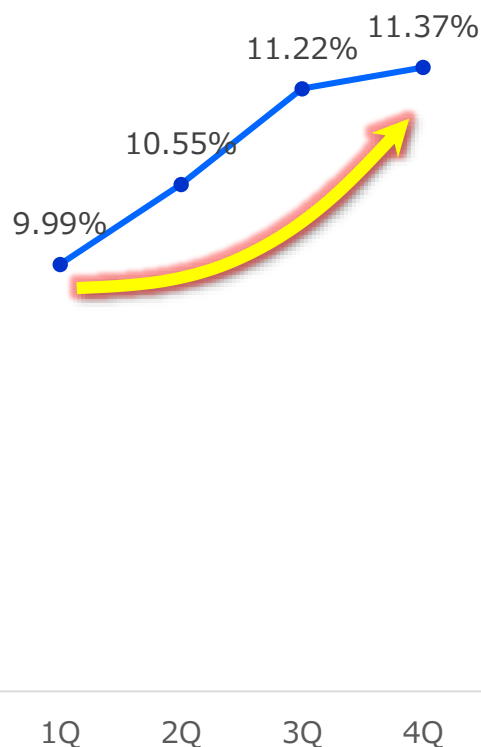
東南アジア金融事業 営業利益

単位：億円

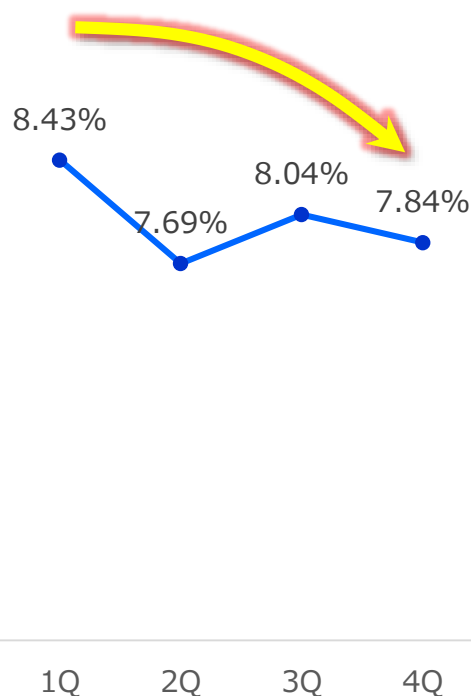


- 営業資産および平均貸出金利の引き上げにより金利収入増大
- 預金費用低減も寄与し、純金利収入（金利収入-利息費用）は着実に増加

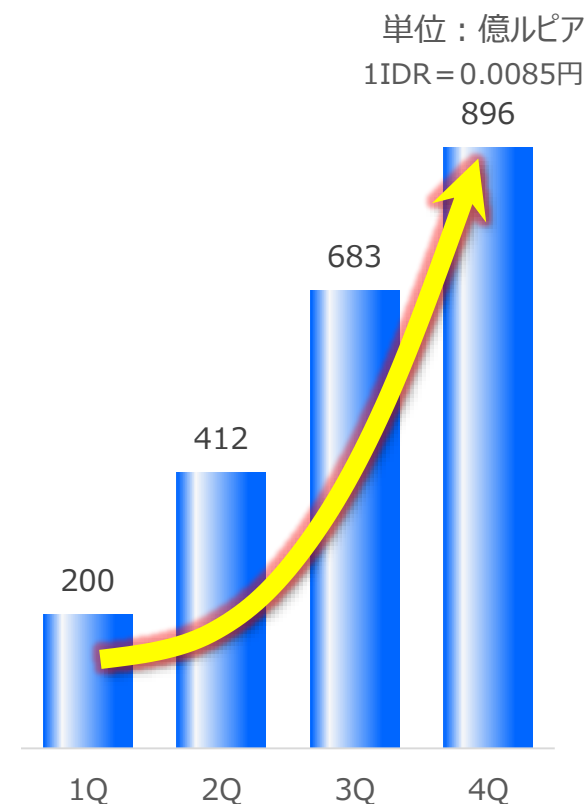
平均貸出金利



平均預金金利



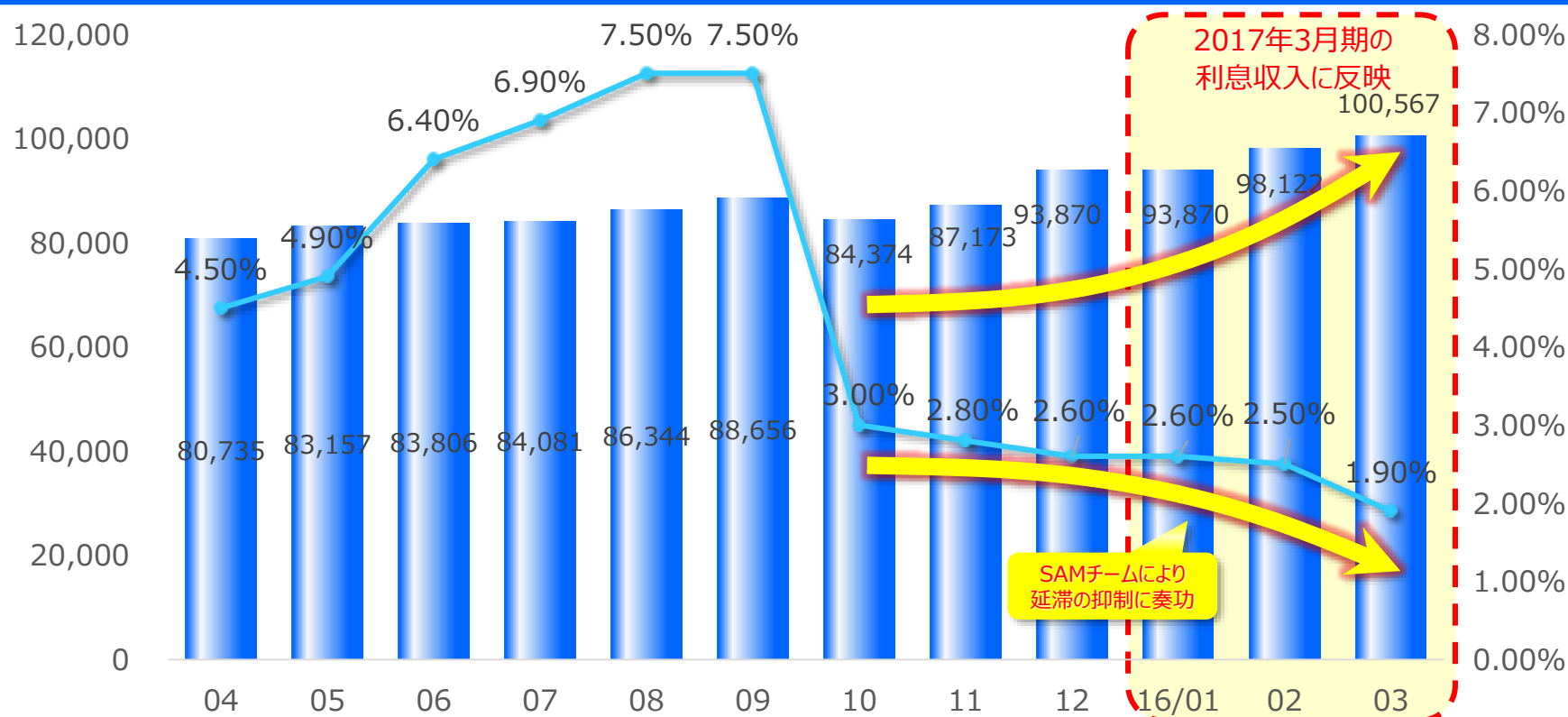
純金利収入



- 営業部隊の強化により、順調に営業資産の積み上げが実現
- 日本/韓国で培ったノウハウで、延滞債権の抑制に成功し、不良債権が低下
- 審査プロセスを整備し、今後も新規融資案件の実行を加速

営業資産残高と不良債権比率の推移

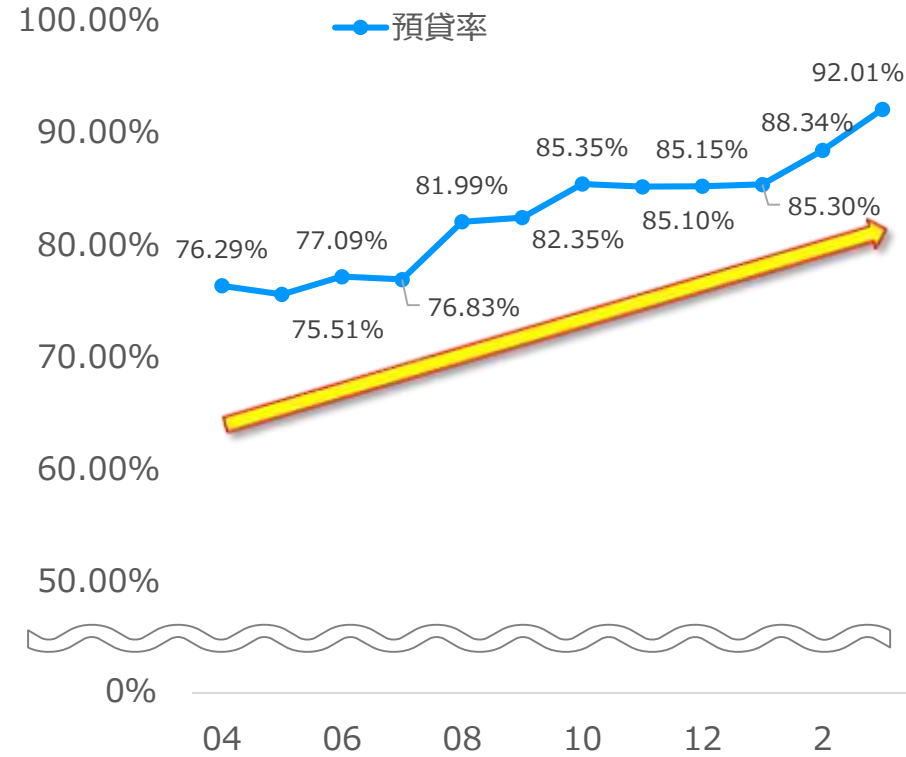
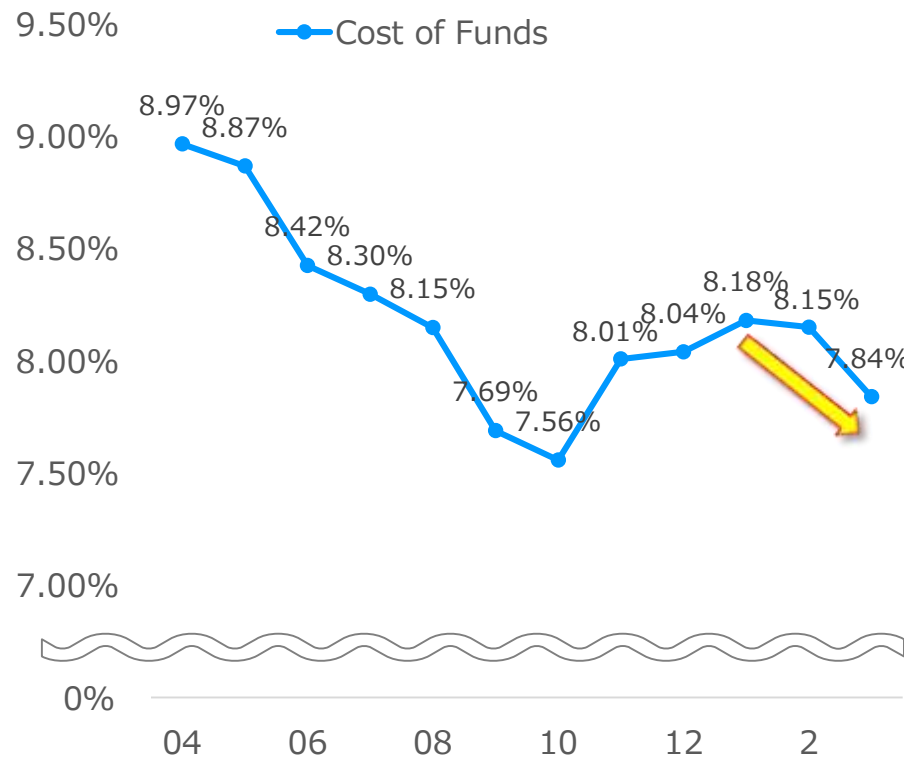
単位：億ルピア
1IDR = 0.0085円



- COF(資金調達コスト/Cost of Funds)は順調に低下
- 貸付残高に併せた預金量のコントロールによって預貸率が上昇（ベースラインコストを削減）

COF(Cost of Funds)および預貸率の推移

単位：億ルピア
1IDR = 0.0085円



- 11月より開始したJトラスト インベストメンツ インドネシア（JTII）の本格的な稼働により、債権回収は順調に進む
- 日本/韓国の債権回収ノウハウを駆使し、第1期から黒字化に成功

J-GAAP

JTII 損益計算書※

	通期
営業収益 (回収額)	291百万円
営業利益	136百万円
経常利益	144百万円
純利益	97百万円

事業開始

2016/3Q (2015/07-09)	2016/4Q (2015/10-12)
—	291百万円
-11百万円	148百万円
-31百万円	176百万円
-31百万円	129百万円

1IDR = 0.0089円

1IDR = 0.0087円

※日本基準に基づく単体数値（連結調整前）で作成しています。
 なお、決算期の差異が3ヶ月以内であることから、2016/4Qの決算基礎は、2015/12の財務諸表をもとに作成しています。
 損益計算書の詳細は2016年3月期決算補足説明資料をご参照ください。

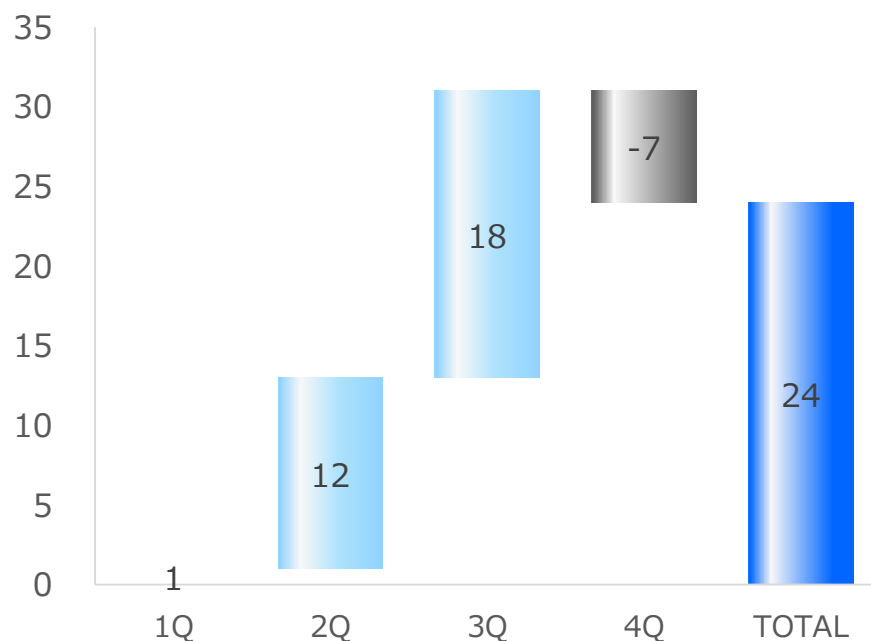
非金融事業・投資事業

- 投資事業では、グループリース社の転換社債引き受け、および転換による投資収益が、連結業績に大きく貢献

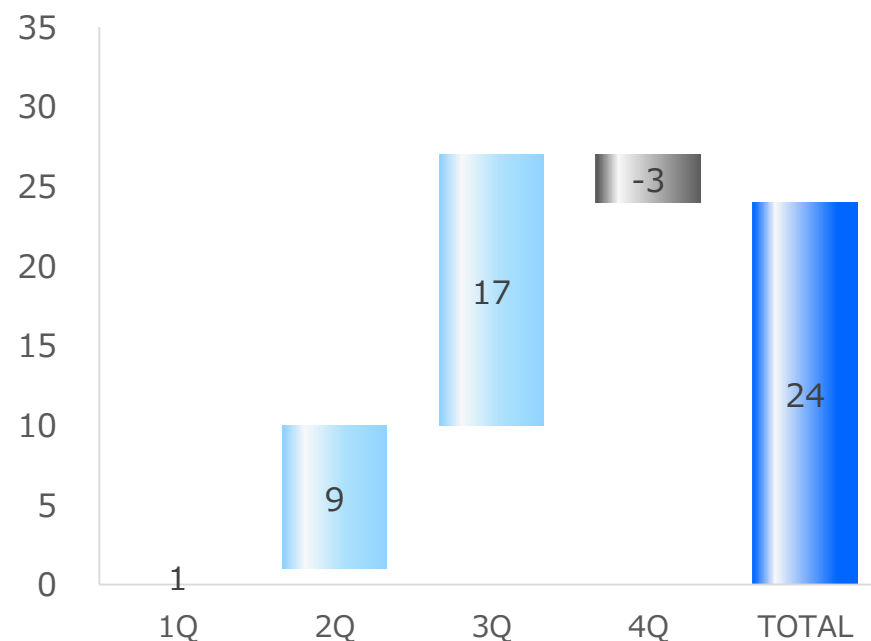
非金融/投資事業 営業利益

単位：億円

IFRS ※未監査



J-GAAP



2017年3月期 計画

- 連結営業利益は、IFRS：151億円 J-GAAP：113億円
- J-GAAPは、正のれんによる影響：-30億円 期ずれによる影響：-8億円

第41期（2017年3月期：中計第2期）計画

	IFRS (中期経営計画)	J-GAAP	差額	要因
営業収益	1,068億円	982億円	-86億円	期ずれによる影響：-86億円
営業利益	151億円	113億円	-38億円	正のれんによる影響：-30億円 期ずれによる影響：-8億円
当期利益	131億円	95億円	-35億円	正のれんによる影響：-30億円 期ずれによる影響：-5億円

- 東南アジア金融事業は下期偏重で推移 銀行とサービサーで目標達成を目指す
- マヤパダ銀行の株式売却で、1Qに14億円の営業収益を計上予定
- 投資事業で30億円以上の利益を確保し、本社費用の増加分をカバー

第41期（2017年3月期：中計第2期）セグメント利益計画

2017年3月期	IFRS (中期経営計画)	IFRS (調整後)	J-GAAP
国内金融事業	40億円	40億円	39億円
韓国金融事業	55億円	55億円	51億円
東南アジア金融事業	32億円	32億円	3億円
非金融事業	18億円	18億円	15億円
投資事業	15億円	30億円	30億円
連結合計	151億円	151億円	113億円

現状の取組みと今後のビジョン

- 信用保証事業、債権回収事業ともに中期経営計画以上の利益を目指す



アパート施工風景



信用保証事業オペレーション

- ビットコイン取引所「J-Bits」を6月中にスタート予定
- 「金融サービスとしてのビットコイン事業」を目指し、銀行、FX取引事業経験者を
主軸に組織を構築
- 他社にはない安心・安全なビットコインサービスの提供を目指す



取引画面 ※



スマホサイト ※



コインポータルサイト

- 負ののれんによる影響の大半を2016年3月期末に消化し、2017年3月期はJ-GAAPでもおおむね実力値の計上が可能に
- M&Aおよび債権買取により、更なる営業資産の拡大を目指す
- 今後のJトラストグループの成長ドライバーとなる



JT親愛貯蓄銀行外観



店内

- グループインから約1年半が経過し、月次での黒字化を実現、経常的な黒字化が射程圏内に
- 経常的な黒字化実現後は、営業資産の積み上げに比例して利益水準が改善する見込み
- JTIIのNPL債権の回収も順調、2016年のスタート時より利益貢献



Jトラストインドネシア銀行 支店外観

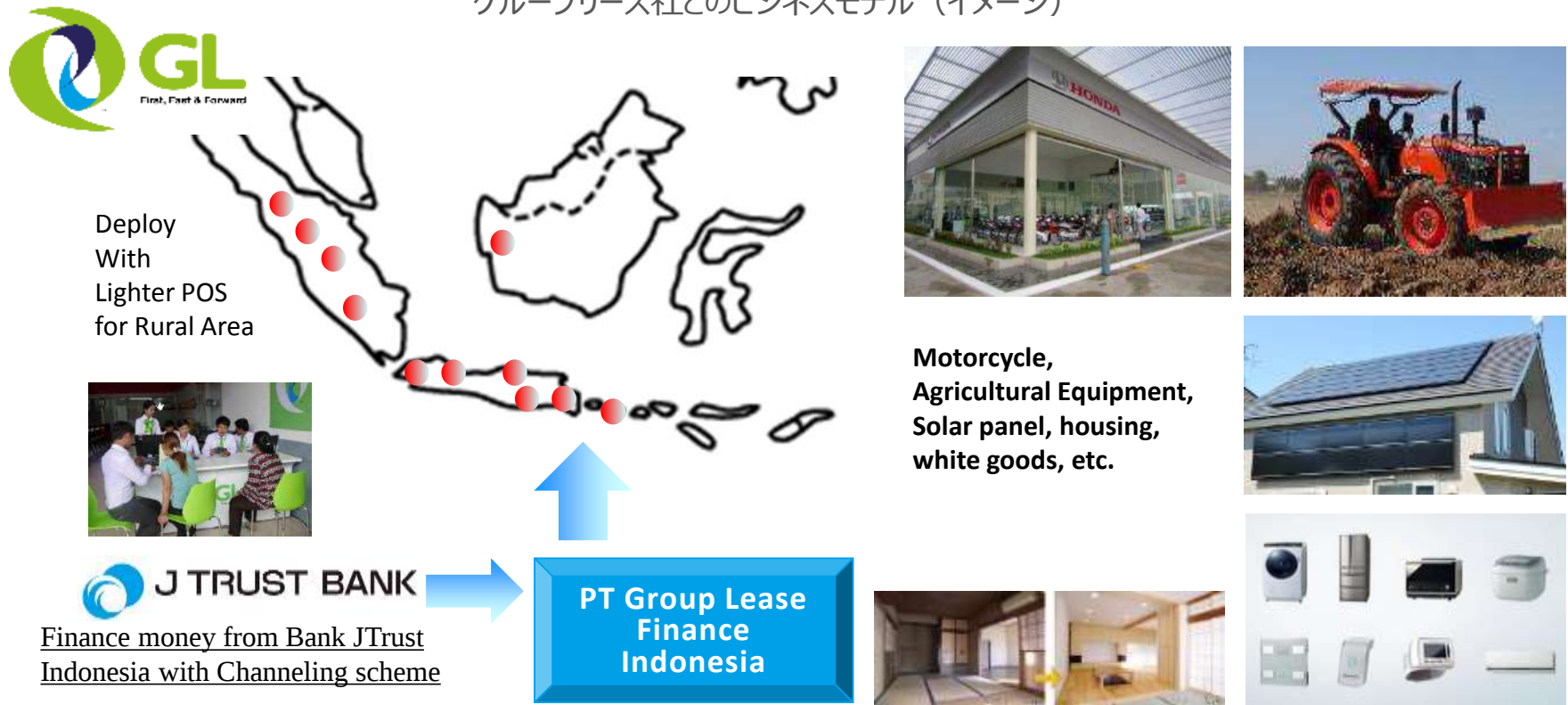


店内



- グループリース社との協業を6月中の開始に向け、最終調整中
- 合弁会社となるGLFI ※ 設立日：2016年4月14日
- ライセンス申請手続きも完了

グループリース社とのビジネスモデル（イメージ）



- 採用した人財による部署力（クオリティ）強化
- 本店で専属チームを立ち上げ、中規模企業向け融資を強化
- 支店に中小企業向け貸し出し部隊を配置
- 日本企業との豊富な人脈を持つ人財を採用し、ジャパンデスクを3月に設置
- 日本の地銀と提携したルピア建て預金の取り扱い開始に向け、手続きを進める
- 高いIT技術を有する韓国金融の電算チームと連携し、グループシナジーを活用



Jトラストインドネシア銀行 本店風景

- マヤパダ銀行の株式を売却 2017年3月期第1四半期に14億円の営業収益を計上予定
- 総合エンターテインメント事業はオリーブスパとの提携など、新たな取り組みで、収益確保を目指す
- 新規投資案件からの利益計上も積極的に狙う



Jトラストアジア



オリーブスパ



オリーブスパ

- 投資対象は、金融事業あるいは金融事業とシナジーが見込める事業
- 目標 I R R = 1 5 % 以上
- 成長市場をターゲットとし、地域を限定しない



- 東京証券取引所 市場第一部指定の申請に向けた検討を開始
- 2017年3月期、第1四半期決算から黒字を目指す
- 下期偏重型で2017年3月期の計画値の達成を目指す



APPENDIX

2016年3月期データ

I. 国内金融事業

⇒信用保証事業は計画通り進捗 債権買取回収事業はNPL債権の買取が奏功し、
営業収益・営業利益共に計画通りに推移

II. 韓国金融事業

⇒K-GAAP（韓国連結会計基準）における連結営業利益は、約700億ウォンを創出。
J-GAAPでは、前期末の負ののれんの影響により計画未達となったが、黒字を確保。
IFRS適用作業の一環として4Qに債権の評価を定額法から実効金利法へ変更したこと
により、2017年3月期以降の負ののれん償却額のうち、約240億ウォンを前倒しで消化。
今後の償却インパクトは圧縮

III. 東南アジア金融事業

⇒IFRSでは、期ずれの影響およびのれんの償却がなく、J-GAAPと比較し大幅に損失が圧縮。
破たん銀行の再生も1年7か月でほぼ完了、期末には東南アジア金融事業として、単月黒字化を
実現。
中期経営計画に対し遅れているが、新たなマネジメント体制の下、事業基盤強化を進めることで
2017年3月期は計画達成を目指す

IV. 非金融事業・投資事業

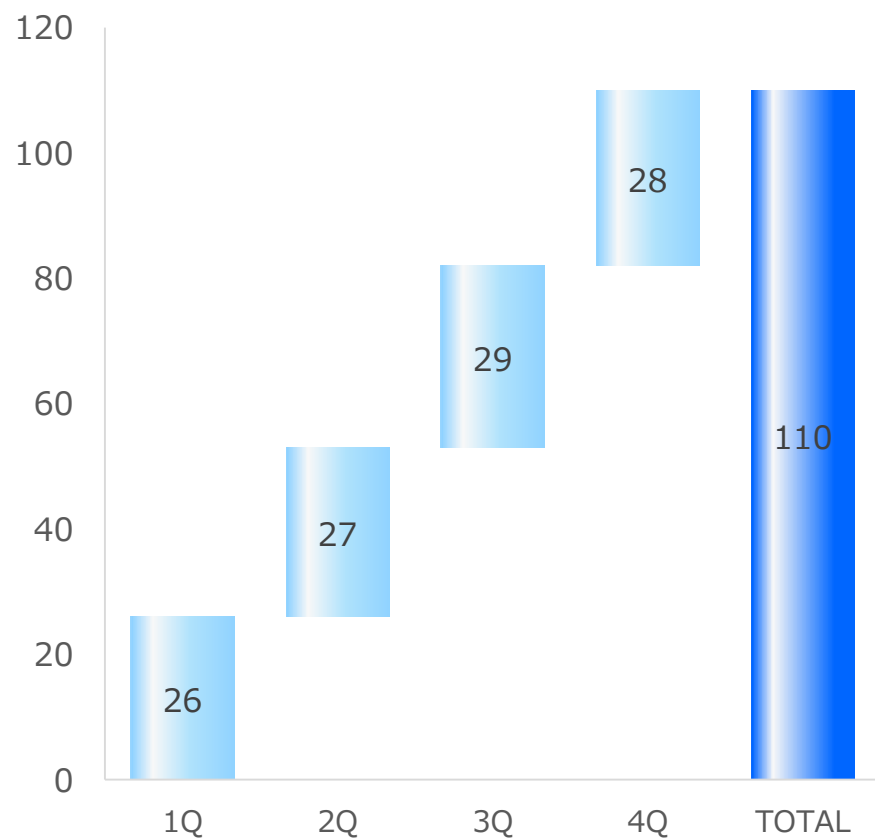
⇒Jトラストアジアの投資事業が大きく貢献

J-GAAP

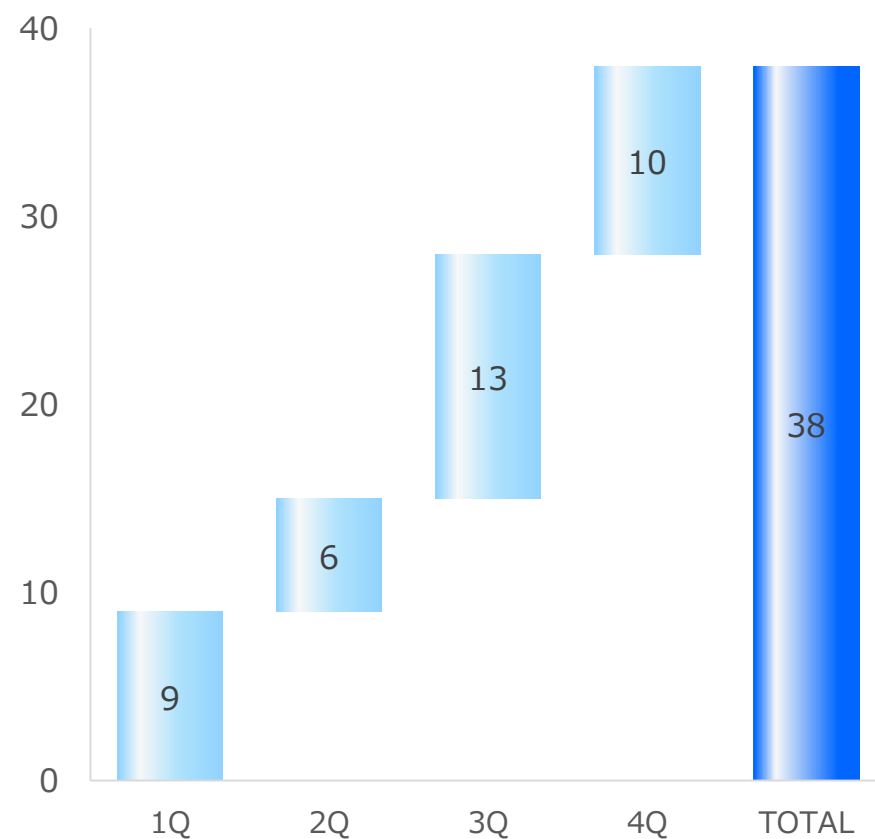
国内金融事業 ハイライト

単位：億円

営業収益



営業利益

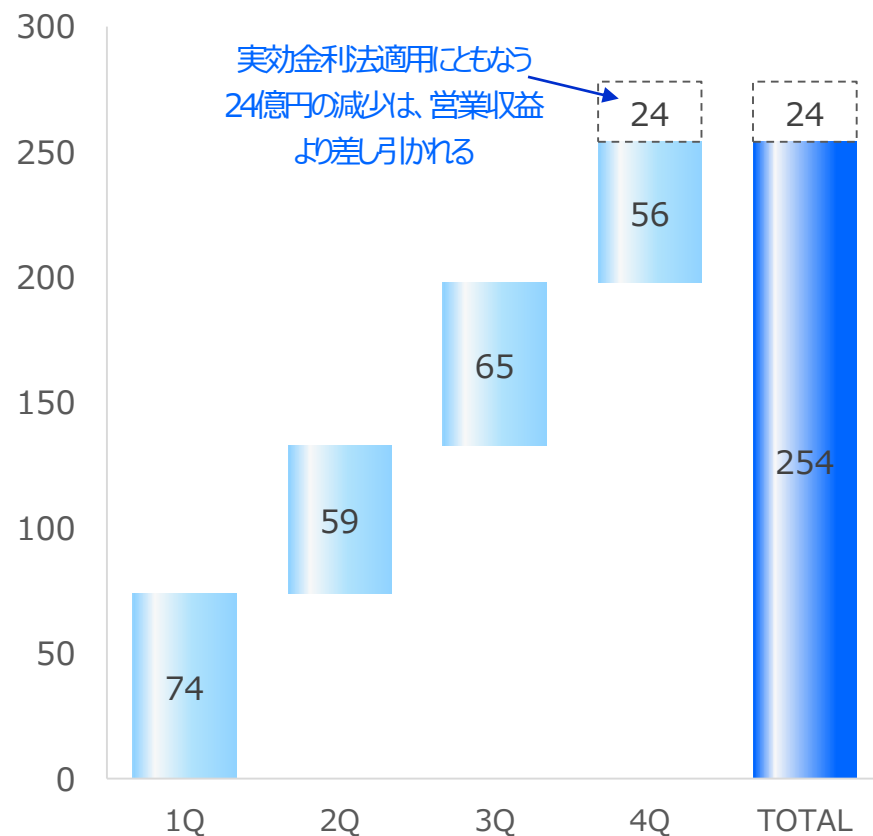


J-GAAP

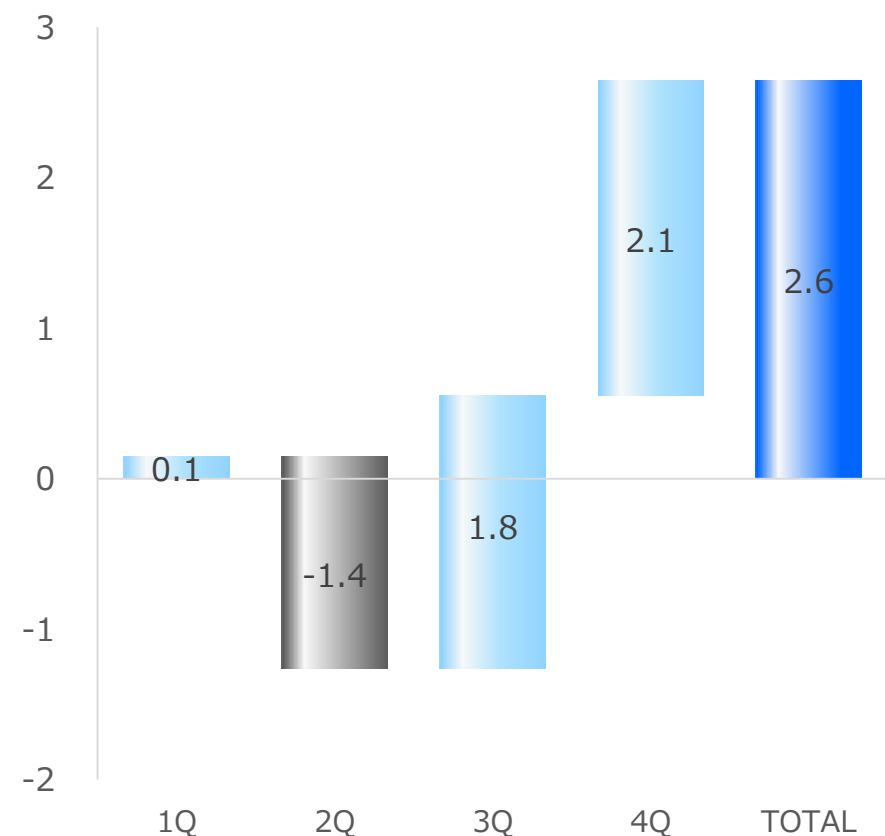
韓国金融事業 ハイライト

単位：億円

営業収益



営業利益

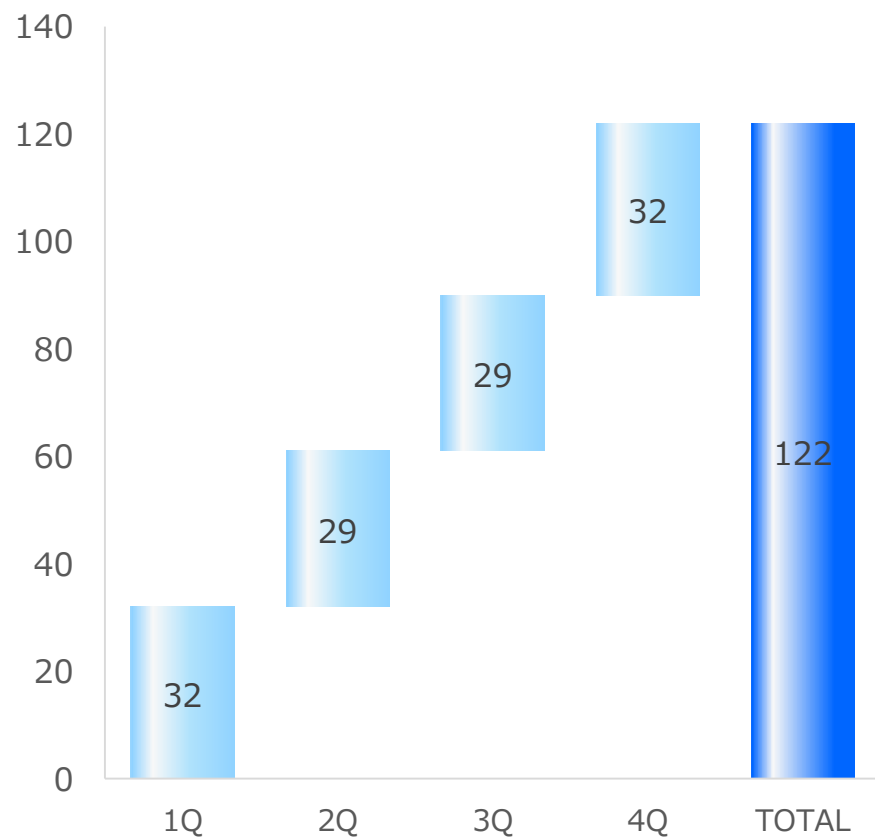


J-GAAP

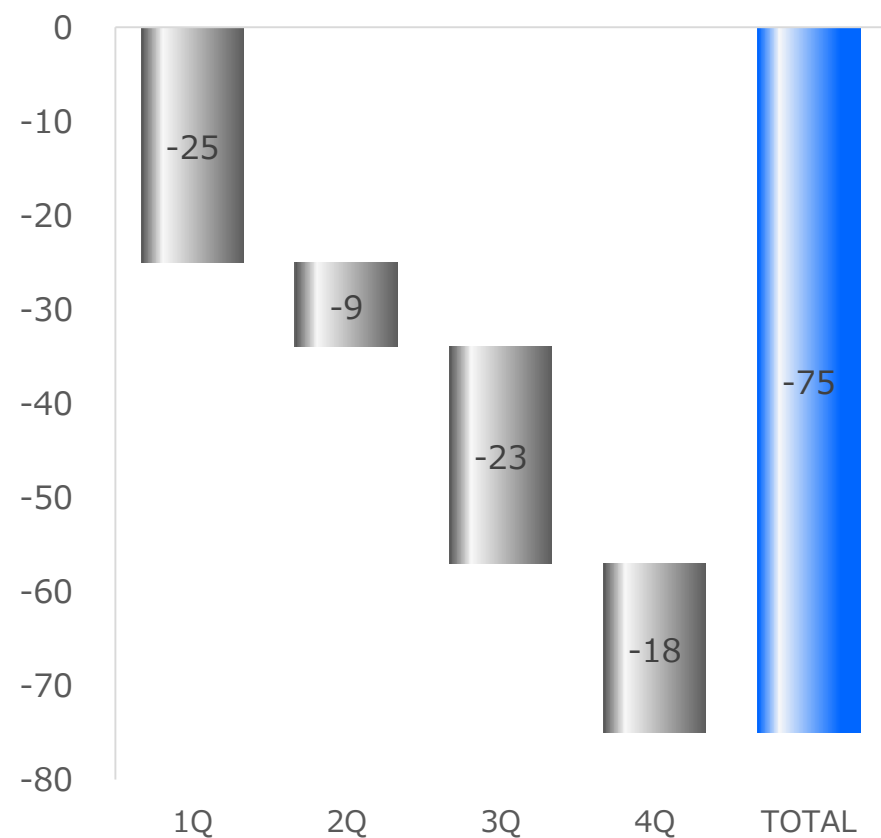
東南アジア金融事業 ハイライト

単位：億円

営業収益



営業利益

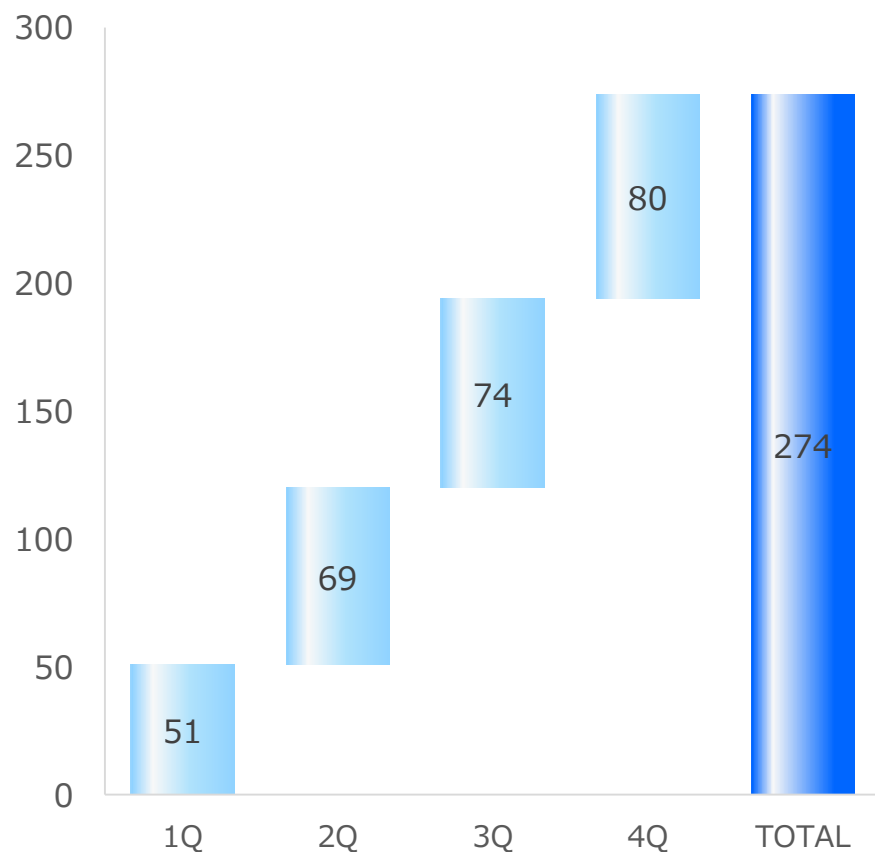


J-GAAP

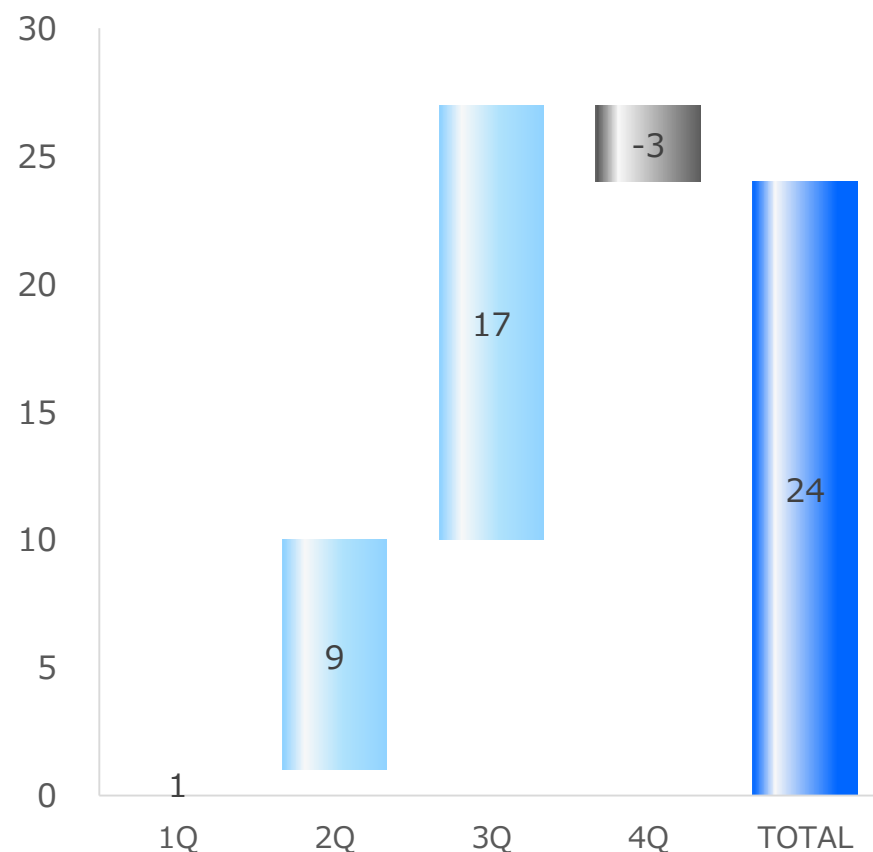
非金融事業 ハイライト

単位：億円

営業収益



営業利益



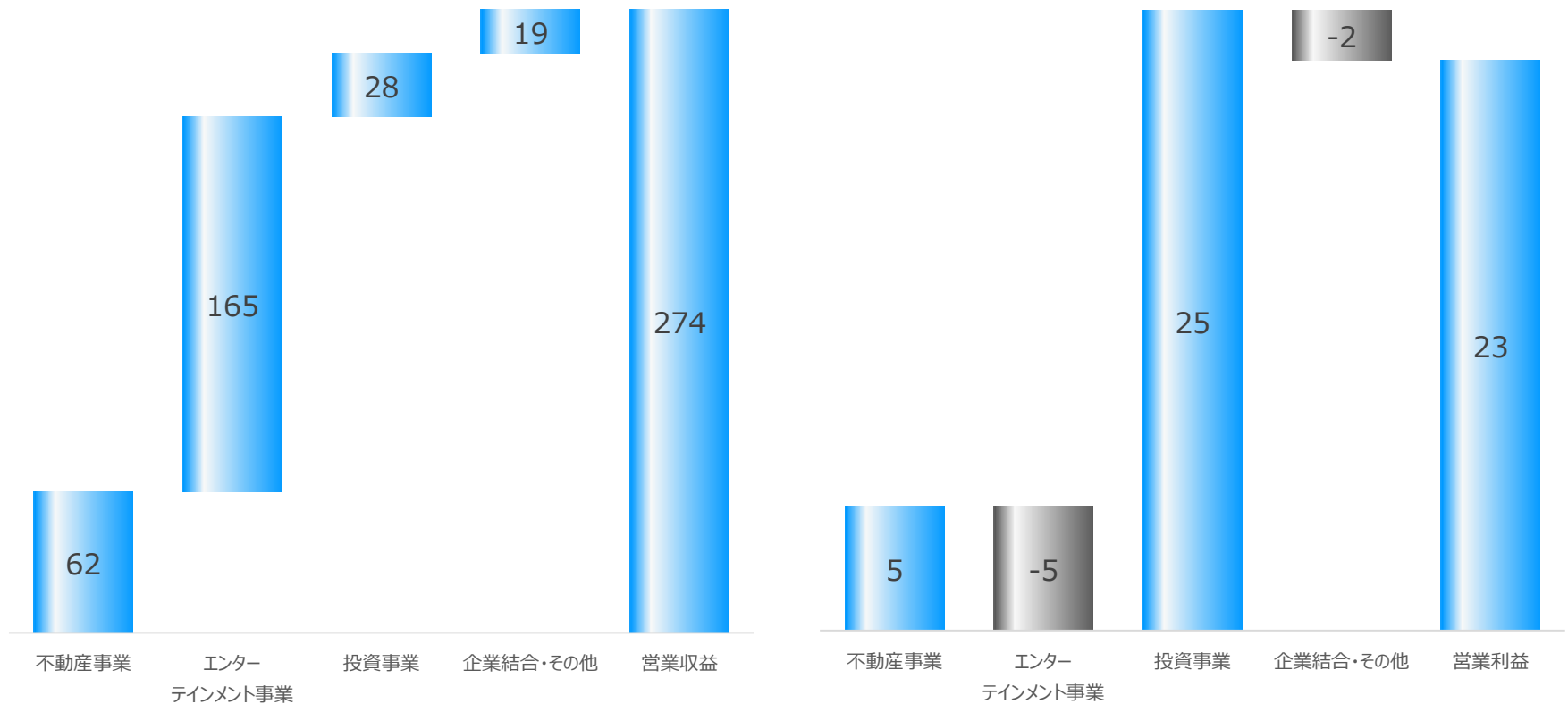
J-GAAP

非金融/投資事業 事業別内訳

単位：億円

営業収益

営業利益



■ 国内金融事業

単位：億円

日本保証	2016.03	2016.04	2016.05	2016.06	2016.07	2016.08	2016.09	2016.10	2016.11	2016.12	2017.01	2017.02	2017.03
債務保証残高	533	548											
うち、アパートローン	121	145											

■ 韓国金融事業

単位：億ウォン

韓国金融事業	2016.3	2016.04	2016.05	2016.06	2016.07	2016.08	2016.09	2016.10	2016.11	2016.12	2017.01	2017.02	2017.03
合 計	19,662	20,148											

		2016.3	2016.04	2016.05	2016.06	2016.07	2016.08	2016.09	2016.10	2016.11	2016.12	2017.01	2017.02	2017.03
銀行業における 貸出金残高	JT親愛貯蓄銀行	12,143	12,265											
	JT貯蓄銀行	3,399	3,681											
合 計		15,542	15,946											

		2016.3	2016.04	2016.05	2016.06	2016.07	2016.08	2016.09	2016.10	2016.11	2016.12	2017.01	2017.02	2017.03
営業貸付金残高	JTキャピタル	4,119	4,202											

■ 東南アジア金融事業

単位：億ルピア

Jトラストインドネシア銀行	2016.3	2016.04	2016.05	2016.06	2016.07	2016.08	2016.09	2016.10	2016.11	2016.12	2017.01	2017.02	2017.03
銀行業における貸出金残高	99,924	101,798											

※決算月のずれを修正しているため、決算補足説明資料とは整合しません。
例) 決算補足説明資料 2016.3のデータ ⇒ 2015.12のB Sから集計

